

模範裁縫教科書



株式會社

三省堂

教科書文庫

4

920

42-1927

2000081281

41254

教科書文庫

4

920

42-1927

20000
81281

52

1927

Kodak Gray Scale



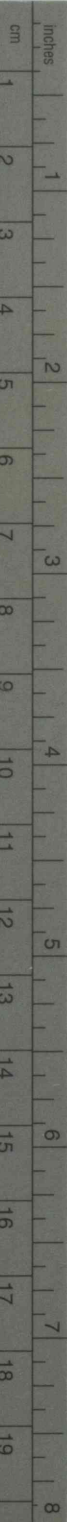
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



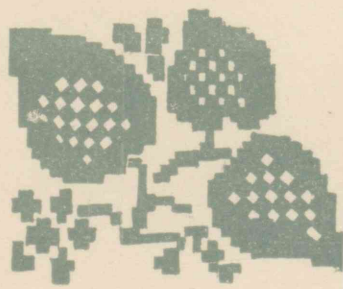
賣 行 室 日 七 月 十 年 二 和 昭 文
濟 定 檢 省 部 文
用 科 縫 裁 校 學 女 等 高

教科書文庫
4
920
42-1927
2000081281

模範裁縫教科書

大妻コタカ著

五 卷



広島大学図書

2000081281



社 會 式 株

堂 省 三

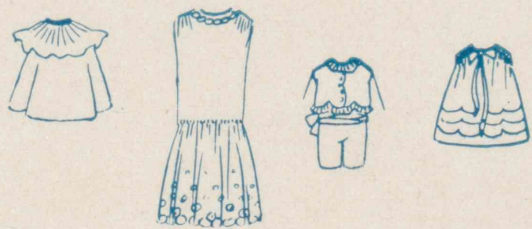
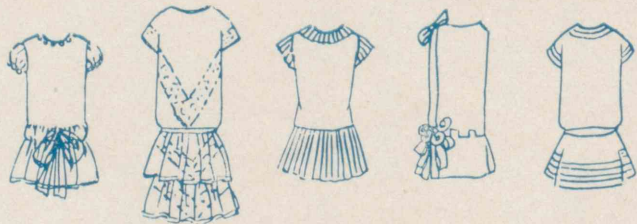
46
930
BB2

精進齋





おばあ様に花束を捧ぐ



はしがき

一、本書は、高等女學校教授要目に準據し、高等女學校及びこれと同程度の各種學校の裁縫科の教科用書に充てたいために編纂したものであります。

二、本書は、實際教授上の便宜から、文部省教授要目の順序を變更し、且つ要目に掲げられてゐないものでも實際必要なものは之を附加しました。

三、本書は、四箇年又は五箇年の高等女學校のいづれにも適切な教科書とするために全體を五卷に分け、第一卷から第四卷までは和服、第五卷を洋服として、各學年の配當は次のやうに致しました。

四箇年程度の學校では、第一學年には第一卷、第二學年には第二卷、第三學年には第三卷、第四學年には第四卷と第五卷とを併用させます。

又五箇年程度の學校では第一卷から第三卷までは前者と同様に扱ひ、第四卷と第五卷とは第四・五學年を通じて併用させます。

四、本書は、多年の経験と研究とを基として、種々の方法の中から最も一般的と思はれるものを採用し、徒に理論に走らず、流儀に囚れないやうにいたしました。

五、従來、使用の鯨尺・曲尺がメートル法になりましたので、これまでの寸法については適宜にこれを取捨し、學習者の實習と記憶とに便利なやうにいたしました。

大正十五年十二月

著者 しるす

模範裁縫教科書 卷五

目次

| | | |
|------|----------------|-----|
| 第一章 | 子供洋服について | 一 |
| 第二章 | 寸法の取り方及び原型割出し方 | 一〇 |
| 第三章 | 子供服下着類 | 一七 |
| 第四章 | 女兒服 | 三五 |
| 第五章 | 男女兒帽子 | 四三 |
| 第六章 | 男兒服 | 五四 |
| 第七章 | 男兒小學生服 | 六九 |
| 第八章 | 運動シャツ及びツボン下 | 八〇 |
| 第九章 | 女學生服 | 八六 |
| 第十章 | 男學生服 | 一〇四 |
| 第十一章 | ケープ | 一三四 |
| 第十二章 | 女兒外套 | 一四一 |

教 授 要 目

注意 ()の中の字は巻数を示したものであります
これは一週四時間の要目であります

| 學年 | 第一學年 | 第二學年 | 第三學年 | 第四學年 | 第五學年 |
|-------|---|--|---|--|--|
| 基礎的技術 | 基礎的技術……………(一) 襦 袢……………(二) 本裁女物單衣……………(二) | 一つ身綿入……………(三) 本裁女物袷……………(三) 寝冷え知らず……………(三) | 本裁女物袷羽織……………(三) 女物單合羽……………(三) 腹合帶……………(三) | 男 袴……………(四) 男物單羽織……………(四) 薄物單衣……………(四) | 本比翼二分ノ一……………(四) 附比翼二分ノ一……………(四) 單衣重ね二分ノ一……………(四) 兒シャツ……………(四) ヅボン下……………(五) |
| 第一學期 | 本裁男物單衣……………(一) 四つ身單衣……………(一) 四つ身袷……………(一) | 本裁男物袷……………(三) 女 袴……………(三) | 絹布・毛織の 繕方……………(三) 本裁女物綿入……………(三) 本裁男物袷羽織……………(三) 中小裁羽織被布 の裁方……………(三) | 子供洋服につい て……………(五) 子供服寸法 とり方……………(五) 子供服下着類……………(五) 女兒服……………(五) 男女兒帽子 丸帶……………(四) | 給半コート……………(四) 男帶……………(四) 小學生服……………(五) 女學生服……………(五) |
| 第二學期 | 子供帶……………(一) 下穿……………(二) | 綿布の繕方……………(二) 女物袷長襦袢……………(二) 一つ身袖無羽織……………(二) | 足袋……………(三) ミシン使用法……………(三) 婦人シャツ……………(三) 涎掛と子供前掛……………(三) 割烹前掛……………(三) | 小袖・模様・紋に ついて……………(四) 小袖袷重ね……………(四) 男兒服……………(五) | 男學生服……………(五) ケープ……………(五) 女兒外套……………(五) 夜具類……………(四) 大中物裁方……………(四) |
| 第三學期 | | | | | |

模範裁縫教科書 卷五

第一章 子供洋服について

第一 洋服裁縫について

近來洋服を用ひることが男子はもとより婦人・子供の間にも非常に流行するやうになつた。中にも子供服は簡單輕便で、動作の活潑を主とし、又衛生的に考案されてゐるものが多い。そして、その形態が種々あるためにその裁縫は、非常に複雑で困難なものやうに一般に思はれてゐる。けれども、今後の女子は洋服裁縫の一通りを習得しておくことが最も時代に適應したことで、又一定の方法さへ會得出來れば、その應用は實に廣く、且つ自由であつて、考案次第では全く獨創的なものが出來、非常に趣味の深いものである。次に洋服裁縫上心得べき二・三を掲げてみよう。

● 布の裁ち方

型紙を全部完全に裁ち揃へ、次にそれによつて布地を裁つ。用布は、まづ毛並の上下及び表裏に注意して、裁たねばならぬ。サージ等毛織物の綾は右上りで、木綿物は左上りが普通であるが時には反対の物もある。ラシヤ等の毛並のある地質は、逆毛にならぬやうに裁ち、又ビロード等は、その反対即ち逆毛に裁つやうにせねばならぬ。又よく裁ち合せを考へて、無駄布を出さぬやうに、且つ子供物は直線の處には縫ひ込みを多くつけておき、後日縫ひ出すのに都合よくする等に注意せねばならぬ。

● 縫ひ方

一、縫ひ糸は、用布と同色又は稍濃い色を用ふ。
 二、縫ひ方は、最も正確に、順序正しく仕上げる習慣をつけることが大切である。練習中に仕上げを急ぐ時は誤りが多く、且つ悪い習慣をつくることが多い。殊に毛織物を仕立てるには丁寧に躰をかけ、常に火熨斗

又はアイロン等を用意しておき、要所に充分アイロンを使つて折りを平つけ、又形を整へるやうに注意する。但し毛織物は必ず裏側からアイロンをかける。もし表からかける場合は、キヤラコを二枚程のせて、その上からかけなければならぬ。

三、下着類はなるべく縫ひ代の部分がかさばらぬやうに始末する。
 四、スナツプや釦は、全部仕上げをしてから後につける。又型の複雑なもの、は、一度假縫ひをして形を見た後本縫ひにかゝる等の點に注意する。

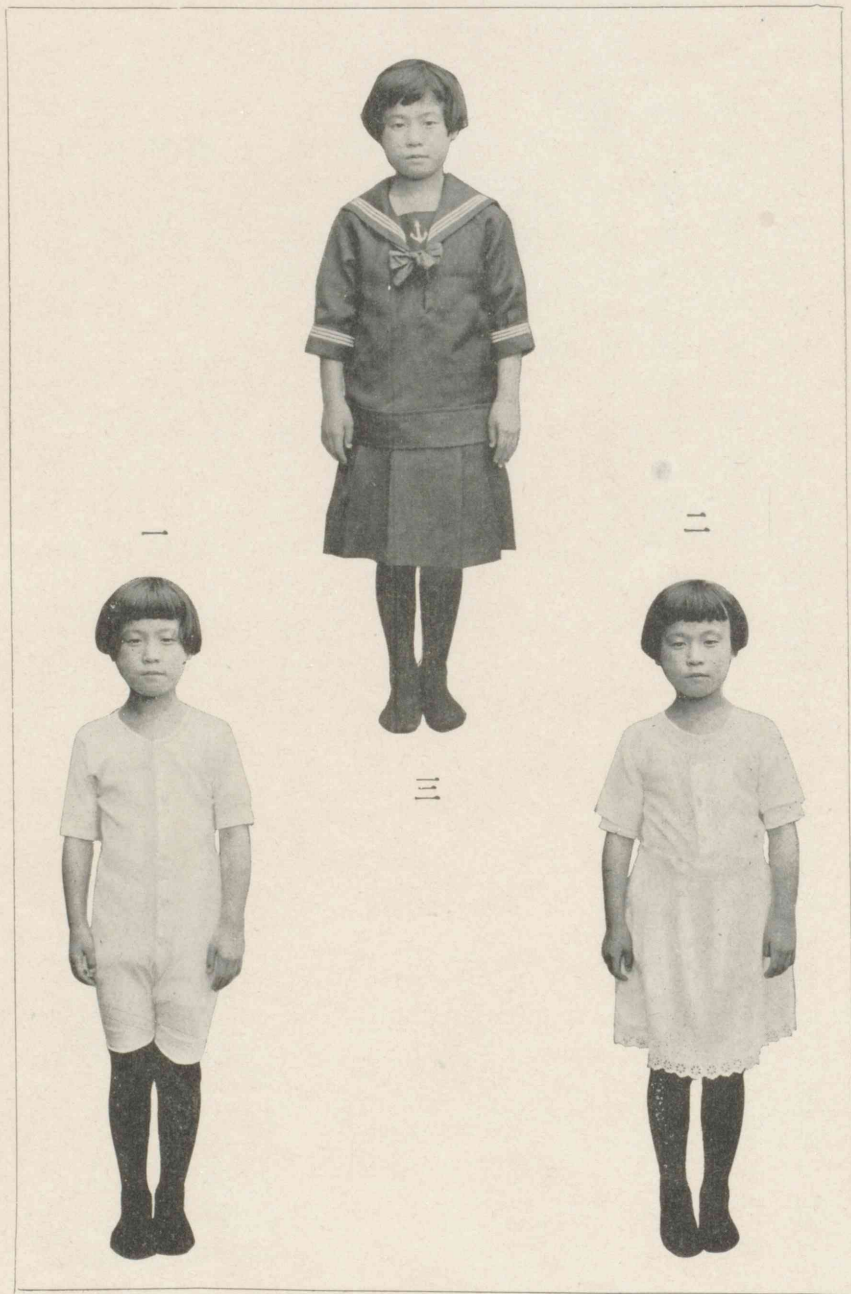
● 色の配合

洋服の色彩は、和服と違つて一枚の洋服にあまり種々な色を用ひず、三色以上はなるべく避ける方がよい。類色配合は最も無難である。又女児服の色合は年齢に關係なく選ばれるが藤色のみは避ける習慣がある。すべて落ち着きのある色合を選び、その配色もくすんだ色を用ひる方が日本人には似合はしい。又洋服そのものゝ色ばかりでなく、附屬品につ

いても色の配合を注意しなければならぬ。まづ靴及び靴下は白か黒を用ひる方が済經上からも配色上からも便利である。帽子は洋服との調和が大切であるが、夏は白麥藁製、冬は黒地の帽子に、各々洋服と調和のよい裝飾をあしらへば、どんな洋服にも使用することが出来る。又洋服の裁ち落しを利用して、六つ接ぎ帽子等を拵へて使ふのもよいものである。要するに、色彩の調和の要點は、何人の目にも感じよく、快感をあたへるやうに注意することが大事である。

第二 着用の順序及び着方

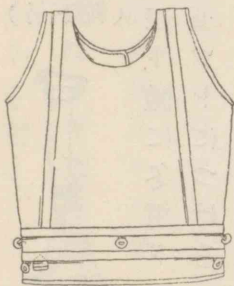
西洋では嚴寒の候でも、華氏七十度を下らないやうに室内の溫度を調節してあるから、四季共に殆んど同一の單衣仕立のものを用ひ、たゞ肌着に多少の差異があり、又取捨するだけである。又注意を要することは永年用ひ慣れた和服は、子供の發育上不完全な點が多いから、洋服に代へたならばといふ傾向になつて來て居る。されば、その着せ方を誤り、身體の



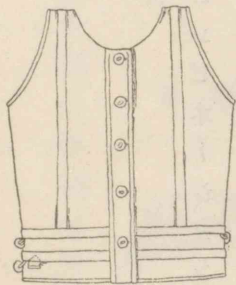
子供洋服着用の順序

(一) コンビネーション、(二) ウェストペティコート (三) 上着

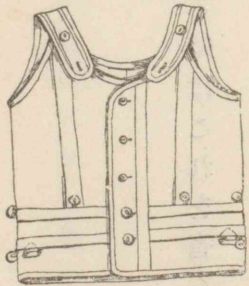
女兒用前



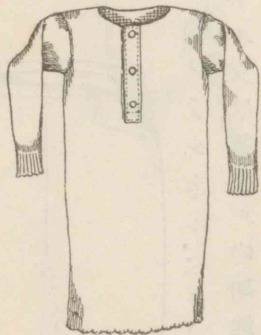
女兒用後



男兒用前



冬用シャツ

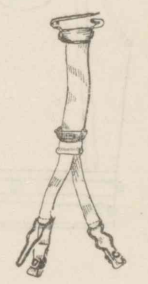


二、上體にコーセット、ウエスト

發育を妨げるやうなことは、洋服も甚だ無意味なものとなる。即ちガ
 ーター(靴下吊)を用ひないで、大腿部を結束するなどは大なる誤りである。
 次に歐米に於ける子供服の着用の順序を述べる。

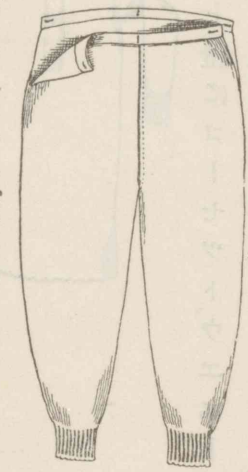
冬 一 冬用シャツ、又は冬用コンビネーション

ガーター
(靴下吊)



三、下體に冬用ドロワース
コーセットにつける。但しコンビネーションを着る時はこれを省く。

冬用ドロワース



四、フランネル、ペティコート
(本ネル又は綿ネルの切地を用ふ)

フランネル
ペティコート



五、ホワイト、ペティコート

ホワイト
ペティコート

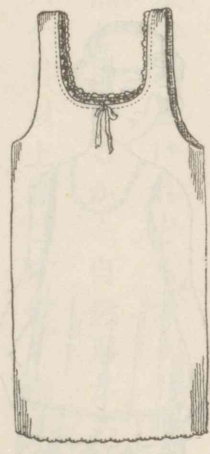


六、上着(ドレス)

男兒は四五を省く。

夏 一、夏用シャツ又は夏用コンビネーション。

夏用シャツ

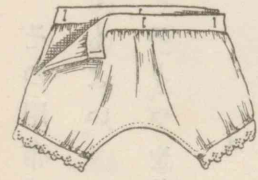


夏用コンビネーション



- 二、コーセット、ウエスト
- 三、ドロワース
- 四、ホワイト、ペティコート

夏用
ドロワース



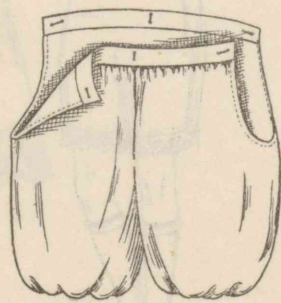
即ち、夏は冬下着の代りに夏物を用ひ、冬用ドロワース及びフランネル、ペティコートを省く。

尙、酷暑の時には、コンビネーションを用ひてコーセット、ウエストをも省き、半靴下を用ひ等する。この外、ブルマースはペティコートの代用として通學の時又は運動用に多く用ひられる。その用布は上着と同じものか、又は上着と同じ色であれば地質は異つてもよい。スリッパは薄いドレスなどに重ねて着る。スリッパを着る時はホワイト、ペ

プリンセス、スリッパ



ブルマース



ティコートを省く等は隨意であるけれども、概して洋服殊に子供は裾短かに着て、上着も單純な色彩のものを用ひるから白い刺繡切レース等が動く時、ちらちら重つて顯はれるのは、優美高尚の感を與へる。それ故に、よ

い衣裳をつける時と、平常の場合と、又氣候によつて多少の取捨をする必要がある。

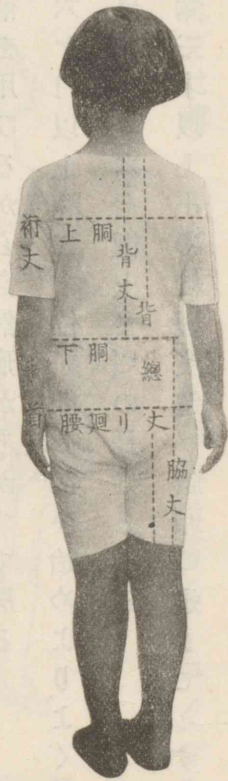
第三 着 丈

- 一、初生兒 身長よりも二・三十糎位長くする。勿論氣候によつて多少の差があるけれども、六ヶ月位から足首の出るやうにする。下着類も襠つぼみを用ひるから自然形がちがつて居る。
- 二、六ヶ月以上満二才位。即ち匍ひ始めより、よく歩くやうになるまでは、足首より六・七糎上までの長さとする。
- 三、満三才以上小學校程度迄。膝頭の邊までとする。
- 四、十二才以上。女學校入學頃よりは膝頭の七・八糎位下までとし、決して膝頭を顯はさぬことである。

第二章 寸法の取り方及び原型割り出し方

① 寸法の取り方

寸法の取り方



腰骨の上部のくびれた處に紐を締め、これを境にして上半身と下半身とに分ける。

一、下胸線、ウエストラ

イン) 紐を締めた線をいふ。

二、背丈(バック) 頸の付け根から下胸線まで、即ち紐を締めた處迄をいふ。

三、背總丈(フルレンクス) 頸の付け根から膝裏までの長さをいふ。

これが即ち洋服の丈となるのであるから、十二・三才からは今少し長くする。

四、胸圍(ブレスト) 上胸線ともいふ。胸の最も高い處の兩脇下の周圍を

いふ。

五、拵丈 手を自然に下げ、頸の付け根の中央から肩山を通り、手首までの長さをいふ。

六、脇丈 下胸線より膝頭迄をいふ。これは下穿類を作る時入用の寸法である。

右の寸法取り方は、子供服に限るが、婦人服の寸法の取り方は尙左の場合をも計る。

腰廻り(シャツ)下胸線から約二十糎下、即ち腰の最も太い處の廻りをいふ。スカート丈、下胸線から床までを計り、その寸法から二十三糎内外を減じたものが普通であるが、流行により加減することは勿論である。

② 標準寸法出し方

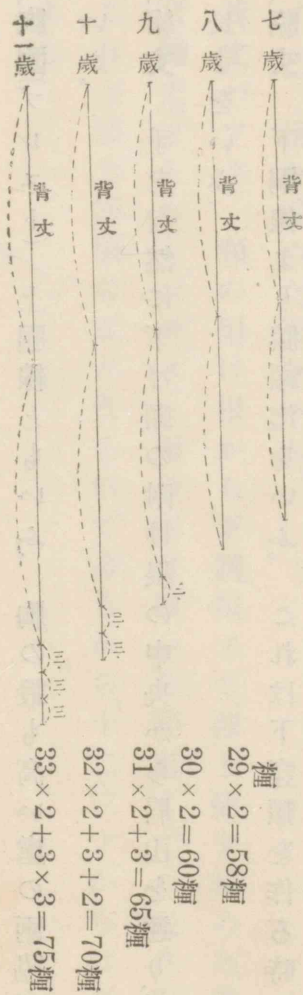
子供の身體は大人と違つて寸法の取り方が簡單であるから、一人々々

計らなくても年齢によつて大體の見積りが出来る。但し子供の發育の程度及び實際の年齢によつて多少加減することが大切である。

一、背丈 一才を二十三糎とし、一才増す毎に、一糎づゝ増す。例へば一才の時は二十三糎、二才が二十四糎、三才が二十五糎となる。これによつて一才から十五才までの子供の背丈を容易に知ることが出来る。

二、背總丈 嬰兒服は總丈七十五糎乃至八十五糎とする。これは和服の産着を長く仕立てるのと同じである。

二才より八才までは前述の背丈の二倍が背總丈となる。九才より十



五才までは、背丈の二倍にし、一才を増す毎に三糎づゝ増す。即ち前圖の如き割合になる。

三、衿丈 背總丈の四分の三とする。但し夏服・春服の場合は半袖、或は七分袖を用ひることがある。

四、上胴・下胴・腰廻り 何れも背丈の二倍にする。即ち子供服はすべて大差が無いためにこの割り出し方にするのである。

標準寸法

| | | | | | | | |
|-----|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 一才 | 二・三才 | 四・五才 | 六・七才 | 八・九才 | 十・十一才 | 十二・三才 | 十四・五才 |
| 背丈 | 二三糎 | 二四糎 | 二六糎 | 二八糎 | 三〇糎 | 三二糎 | 三四糎 |
| 背總丈 | 四五糎 | 四八糎 | 五二糎 | 五六糎 | 六〇糎 | 六四糎 | 六八糎 |
| 胸圍 | 四六糎 | 四八糎 | 五一糎 | 五六糎 | 六〇糎 | 六四糎 | 六八糎 |
| 衿丈 | 三四糎 | 三六糎 | 三九糎 | 四二糎 | 四七糎 | 五一糎 | 五五糎 |

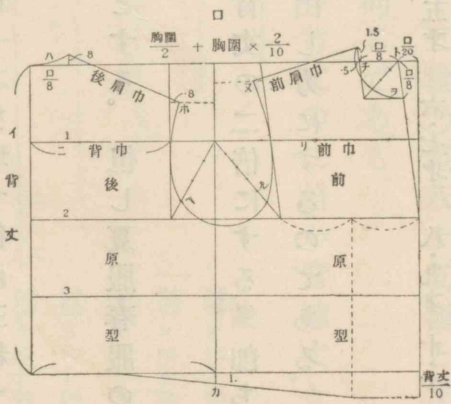
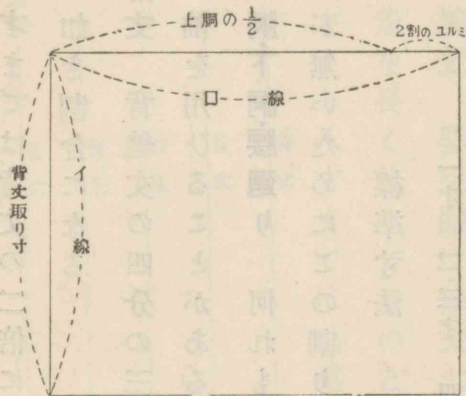
原型割り出し方

まづ圖の如く基礎線を引く。

イ線は背丈

ロ線は上胴廻りの二分の一に尙、その十分の二を弛みとして加へたものである。即ちこのイ・ロ二つの基礎線で前後の身頃の上半身が出来るのである。

原型の取り方



但し下着の場合は、ロ線は十分の二の弛みでなく、十分の一の弛みにして原型を製圖する。イ、背丈を四等分して、三本の線を引き、番號をつける。

ロ、半胸圍に十分の二の弛みを加へたもの、ロ線の中央より一糎五耗左へ

寄せて縦線を引き、左を後身とし、右を前身とする。

ハ、左の角からロ線の八分の一に印をつけ、更にその八分の一を上に出し、

背の中心からそれをつなぎ後衿ぐりとする。

ニ、ロ線の三分の一に縫ひ代を(八耗)加へ、それを第二線まで引き、背巾を定

める。

ホ、ロ線と第一線の中央で、背巾より右に五耗出し後背巾を引く。

ヘ、圖の如く斜線を引き、それを四等分して標をつける。

ト、ホと、ニと、十文字の處との四ヶ所を通つて格好のよい丸みをつけて線を引く、これが後の袖附となる。

チ、ロ線の二十分の一の胸ぐせをとる。

テ、トチはロ線の八分の一で、後衿肩明と同寸である。トを起點として左

へも又下方へも、その寸法の印をつけ、稍ゆがんだ四角線を引く。その

時基礎線上に一糎三耗程延ばしておく。
 リ、ニと同寸で、胸ぐせに添うて線を引き、前胸巾を定める。
 ヌ、口とホの中央に線をひき、後肩巾より七耗程少ない寸法をチの尖端か
 ら引き、前肩巾を定める。

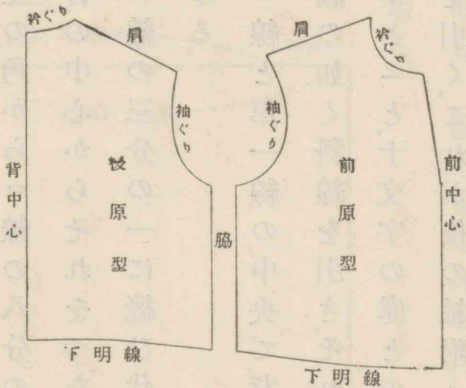
ル、斜線を六等分して脇の下の處を三耗くり
 下げ、丸く前袖ぐりをつくる。
 ヲ、あごぐり線である。斜線を四等分してチ
 の線の處で三耗くり込み、前中心へと丸み
 をつくる。

ワ、背丈の十分の一の前下りをつける。

カ、脇の線で一糎下げ、後巾の中央へ斜線を引

き、それと前下りとを結びつける。
 かうして出来上つた原型が洋服裁縫の基礎となるのである。

原型を切り離した圖



第三章 子供服下着類

第一 ドロワース

ドロワースとは下穿のことである。種類はいろいろあるが、コーセツ
 ト、ウエストにつけて着るのを本體とする。

用布 冬は綿ネル・メリヤスの類を用ひ、夏はキヤラコ・縮等を用ひる。
 積り方

脇丈に、上下の縫ひ代及び後を上げる寸法を加へたものが丈であるか
 ら、布の巾及び型紙の大きさによつて丈の二倍、又は三倍又は裁ち違ひ等
 に積る。

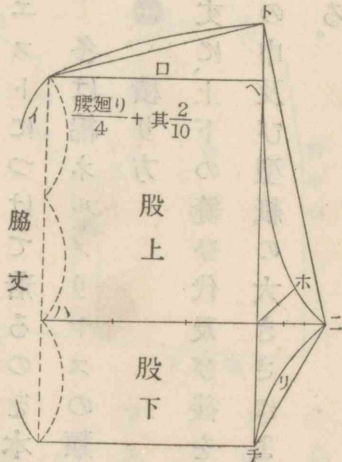
型紙の裁ち方

紙の輪を左にしておき、次のやうに製圖をする。

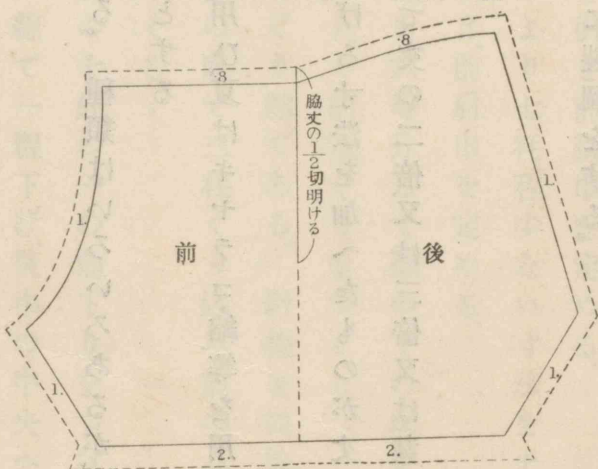
イ、脇丈即ち腰骨の上部から膝頭までの寸法。

口、腰廻りの四分の一にその十分の二を加へたもの。このイ・ロの長さを

型紙の裁ち方



型紙を開いた圖



以つて長方形を畫く。ハ、イの三分の一の位置に横に線を引き、股上と股下

の境を定める。

二、ハ線の三分の一を右へ出す。

ホ、ニの三分の二の長さを、圖の如く斜に出す。

へ、上の角のへよりヲ・ニを通つて丸みをつけて線を引く。

ト、股上の五分の一だけ後を上げイの上端より斜線を引き、少し丸みをつける。尙ト・ニを結びつける。

チ、ニより圖の如く斜線を引き、八耗位内側をくり落す。このやうにして

出來上つたならば、イ・ロ・へ・ホ・ニ・リ・チを切つて前身とする。イ・ト・ニ・リ・チ

を切つて後身とし、尙脇は半ばまで切る。

型紙が裁てたならば、圖に示した通り、縫ひ代を、裾に二糎、上の帯の處に八耗、前後股上、股下には一糎づゝつける。

縫ひ方順序

一、前及び後の股上を充分のばし、地質によつて袋縫、割り縫、伏せ縫等にする。

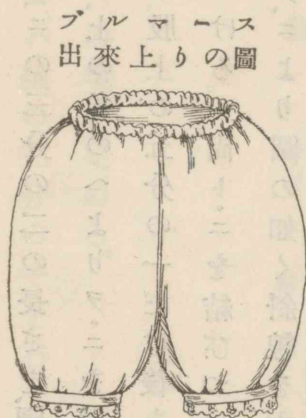
二、股下も同様に縫ひ合せる。

三、前及び後の帯のつく處を下胴の寸法に縫ひ縮めて、後脇明に持ち出し及び見返しをつける。

四、帯をつける。帯巾は出来上り四糎位にする。

五、裾口を折り上げてミシンをかけ、ゴムテープを入れるか、又はレースをつける。レースをつけるならば裾の縫ひ代は一糎とし、二、股下縫とした處を、レースをつけてから股下を縫ふ。

六、釦穴を前後の帯の中心と前兩脇は縦穴、後の兩端は横穴にあけて穴かがりをする。

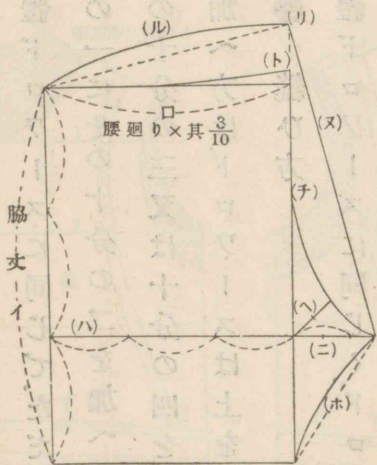


ブルマースは既に第一章で述べたやうに、上着と同色のものを用ひて作り、子供の下穿として、大層便利で、仕立て方も、着用も、簡単で且つ暖かである。腹部にゴムテープを入れ、

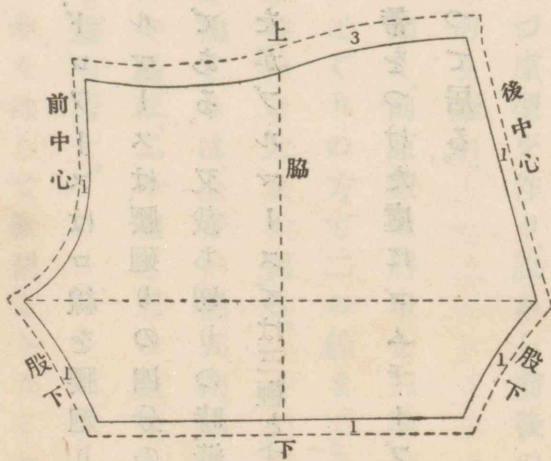
裾口は縫ひ縮めてレースをつける。その製圖は略ドロワースと同じであるけれども、少し巾を広くする。尙、場合によつて用布はキヤラコ縮フランネル等をも用ひる。

● 積り方
ドロワースと同じ。

型紙の裁ち方



型紙を開いた圖



二 裁ち方

大體ドロワースに同じで、ただ違ふのは、ドロワースは口線を腰廻りの四分の一にその十分の二を加へたのを、ブルマースは腰廻りの四分の一にその十分の三又は十分の四を加へるのである。又裁ち切りの時縫ひ代の加へ方は、ドロワースは上を八耗としたが、ブルマースでは三耗とする。

三 縫ひ方

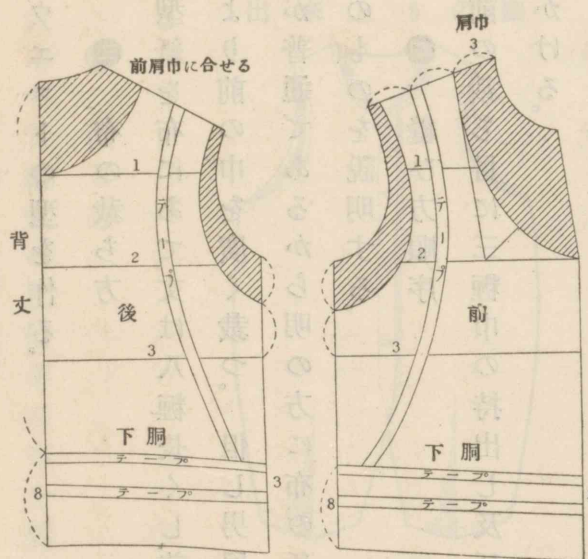
大體ドロワースに同じく、ドロワースの帯をつけた處にゴムテープを入れて紵け上げ、又脇をあけぬこと等が違つて居る。

第三 コーセット、ウエスト

コーセット、ウエストはドロワース・ペティコート・ツボン及びガーター等を吊るもので、婦人服のコーセットに相等するものである。

用布 カツラギ、地厚のキヤラコの類を多く用ひ、幼児のためにメリヤスで既成されたものもある。

コーセット・ウエスト型紙の裁ち方



二 型紙の裁ち方

六十八種巾のものを、出来上り丈に縫ひ代を加へて二倍し、更に前下りの分三耗を加へたものである。

一 積り方

まづ原型を作り、脇から前後の二つに切り離す。圖の如く、前原型の肩巾を三等分して、あごぐりの方で二の線までその三分の一を大きく刳る。次に袖ぐりは、上で一耗五耗、脇の縫ひ目の處は、二の線と三の線の中央まで裁ち落す。

このやうにして原型よりコーセット

ト、ウエストの型を作る。

③ 布の裁ち方

型紙を布にあて、丈は八糎長くし、前は縫ひ縮めの寸法として、三糎程型紙より前の中を長く裁つ。但し男兒は前掛けとし、女兒は後掛けにするのが普通であるから明の方に布の耳を用ひ、他方を輪に裁つ。次に前掛けのものを説明する。

④ 縫ひ方順序

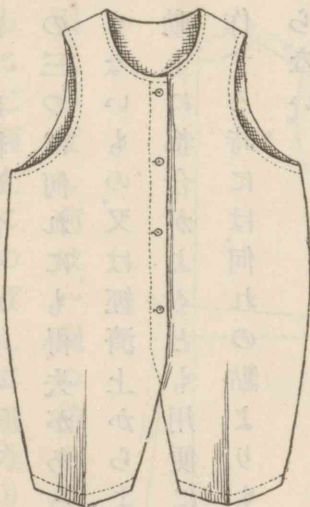
- 一、前の裁ち目に三糎巾の持出し及び見返しをつけ、表から飾りミシンをかける。
 - 二、両肩を伏縫又は袋縫にして接ぎ合せる。
 - 三、斜布のテープをつけ、ミシンをかける。
- これはドロワースとペテコートを吊るために力切としてつけるもので、前後とも肩の中央から袖ぐりに添うて縦に下胴までつける。第一

章コーセット、ウエストの圖を参照する。

四、衿ぐり袖ぐり及び裾の裁ち目を全部斜布で挟み、ミシンをかける。その時前の縫ひ縮めの寸法を、重なりから左右三糎程離れた處にする。

第四 コンビネーション

コンビネーションの圖
出來上の出



コンビネーションとは、ウエストとドロワースを續けて仕立てたもので、子供の下着として極めて便利なものである。用布は普通、下着類に使用する綿フラネル・キヤラコ・ネンスーク・縮等を用

ひる。

① 積り方

大巾で背總丈の二倍半の布を要す。

コンビネーションの裁ち方にも種々ある。

- 一、前後共一枚の布で續いて居るもの。(出来上り圖)
- 二、前だけ上下續きて後は上下別布となつて居るもの。
- 三、上部下部縫ひ合せたもの。

右の三つは何れにも得失がある。裁縫上簡便でも經濟上作法上からよくないもの、又は經濟上からよくても裁縫の複雑なものもある。又運動上に都合がよくとも用便に不都合なものもある。さればこれを製作する時には、何れの點よりも缺點の無いやうにと、考案しなければならぬ。

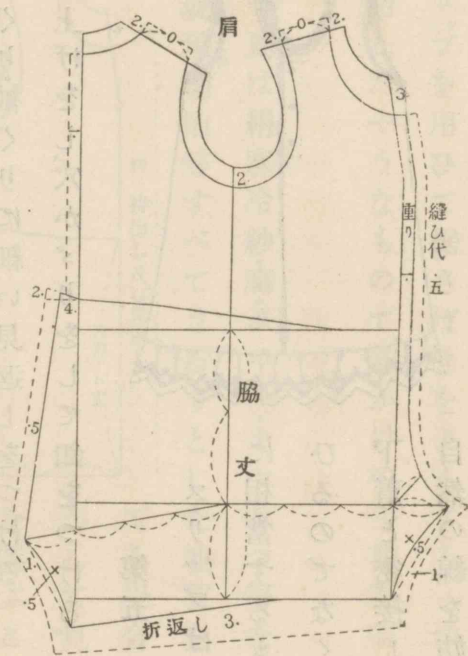
● 裁ち方

- 一、原型によつて、衿ぐり、袖ぐりを圖のやうに定める。

注意

衿ぐりは、上着から下着が見へぬ程度に裁ち落すこと、又袖ぐりは窮屈にならぬためにくり下げる。

コンビネーションの裁ち方



- 二、原型前下りの下から脇丈

をのばす。

- 三、脇丈を三等分してドロワ

ースの如く、股上、股下の境の線を引く。

- 四、脇を中心として、前は巾の

三分の一のばし、後は、股上の五分の一下げて、三分の

一引きのばし、前は、一糶の持ち出しをつけ、後は、下胴線の處で四糶出し、さらに二糶上にのばして重なりをとる。

- 五、後股下寸法は、前と同寸にして中央で五耗くる。

二右の型紙に、裁ち方圖に記入した縫ひ代をつけて、左右の身頃を裁つ。

● 縫ひ方順序

- 一、背を縫ふ。布の厚さにより、割り縫伏せ縫、袋縫何れでもよい。
- 二、股下を縫ふ。
- 三、左右の身頃を前重なりから後の重なりまでつづけて、三糎巾の見返しをつける。
- 四、背縫と同じ縫ひ方にして肩を縫ひ合せる。
- 五、衿ぐり袖ぐりに細い見返しをつける。
- 六、仕上げをし、穴かぶりをして釦をつける。

スリッパ出来上り 圖



第五 スリッパ
スリッパは下着の一種で、和服の長襦袢に相当するものである。防寒用のみに用ひるのでなく、普通洋服は単衣であるため下着と密接して洋服の生命ともいはれる自然の線を妨げる故、その形を整へるため

にスリッパを用ひて裾さばきをよくする。つまりウエストとペティコート
を連結したやうなもので、釦がけの手数を省き、且つ腹部を締める心配も
ない。

用布 夏は絹寒冷紗・麻・ボイル・キヤラコ等を用ひ、冬は毛織子・キヤラコ・羽
二重・琥珀・絹紬等すべてさらりとした地質を選ぶ。又上着の裏地で仕立

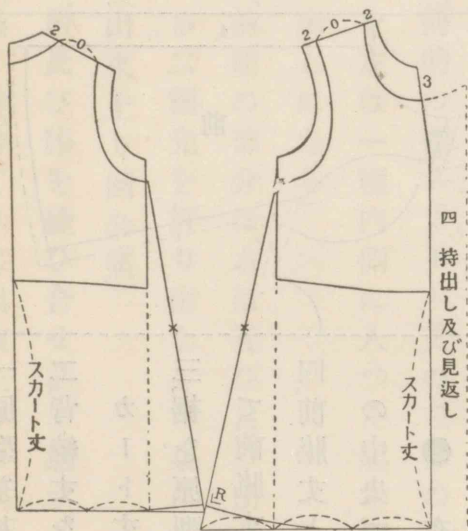
てる場合もあり、又夏季は上着からす
かして見せるために配合のよい色合
を選ぶこともある。

● 積り方

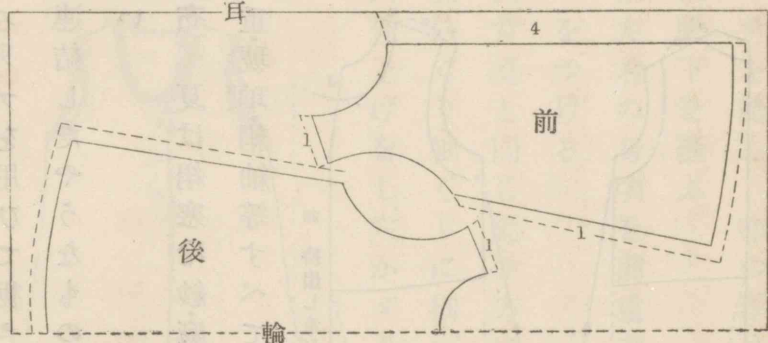
六八糎巾で背總丈の二倍の丈を
要す。外に裾飾りのレース及びボタ
ン・スナップを必要とす。

● 裁ち方

スリッパ型紙の裁ち方



布の裁ち方



- 一、原型を基礎として、衿ぐり袖ぐりを定める。
- 二、背總丈を定める。即ち前は前下りの下からスカート丈をのぼし、後は背の中心から計る。
- 三、裾を原型巾の二分の一開き、裾巾の中央に向つて前脇丈の斜線に直角をとる、前下りをつける。
- 四、前脇丈と同寸に後脇丈を定めて、前と同様に巾の中央で裁ち落す。

● 布の裁ち方

圖に示す如く、衿ぐり袖ぐりには縫ひ代をつけない。その他は一糎づゝの縫ひ代をつけ、布を經濟に裁ち合せる。

裾のレースの巾は、豫め總丈から減じておき、レースの丈は裾廻りの約一倍半を要す。(但しレースの巾に、より多少加減する)

注意

- 一、背總丈は上の洋服よりも二糎短かくすること。
- 二、袖ぐり、衿ぐりは上着より多くくること。
- 三、裾の開きは地質により、又流行によつて多少加減してよい。
- 四、明は前に限らず、後、或は肩何れでもよい。

● 縫ひ方順序

一、前明の標(スカート丈の三分の一まで)から下を、右は中心線から一糎先を、左は一糎内側に入つた處を縫ひ合せる。(これが前の見返しと持ち出しになる)

二、前明の部分は、右は縫ひ目の山から裏に折り返し、左は縫ひ合せた處から二糎先を折り山として、裏に折つて、左右各々飾りミシンをかける。

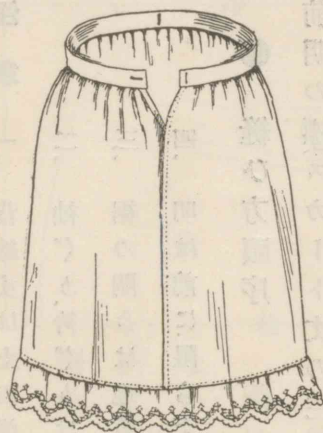
(出來上り圖参照)

三、肩及び脇を縫ひ合せ、前に返す。

四、袖ぐり、衿ぐりに出來上り巾、八耗位の見返しをつける。或はそこにレ

四、リスをつけることもある。但し見返し布は正しい斜布を用ひる。
 五、裾にリスをつける。
 裾を端から二糎五耗の處を折り山として、一糎巾にミシンをかけ、リスを裾巾に縫ひ縮めて、裾の裁ち目と縫ひ合せ、その縫ひ代を一糎巾にミシンをかけた處へ折り込み、ミシンで押へる。
 レリスの縫ひ縮めの加減は、その巾により廣い物は多く、狭い物は少なく縮める。

ペティコート出来上りの圖



六、仕上げをしてスナツプをつける。スナツプは凸起した方を上に凹んだ方を下にして何れも三十番位のカタン糸で丈夫につける。

第六 ペティコート

ペティコートは女兒及び婦人下着として

缺くことの出来ないもので、冬は下にフランネル・ペティコートを用ひその上にホワイト・ペティコートを用ひる。

用布は本ネル・綿ネル・毛襦子・キヤラコ・輸出羽二重等を用ひる。

三 積り方

スカート丈の二倍に、帯布として十糎程加へる。

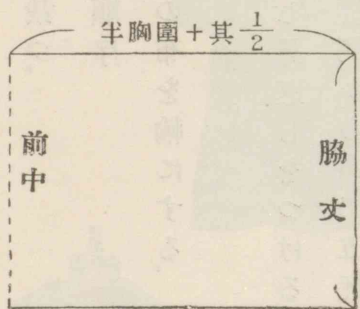
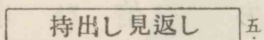
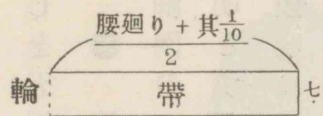
裾飾りには共布又は刺繡切・レース等を用ひる。

後中

二 裁ち方

上圖の如く、巾は輪にして半胸圍の一倍半とし、丈は上着丈より、二糎程短かく脇丈を定める。レースをつける時は、その巾だけ減ず。帯丈は腰廻りにその十分の一を加へ、それに兩端の縫ひ代及び重なり

ペティコートの裁ち方



をつける。巾は七糎の裁ち切りとする。その外に後の持ち出し及び見返しを五糎巾に裁つ。

● 縫ひ方順序

一、胸圍の一倍半の布を輪にする。その時丈の三分の一を縫ひ残して後明とする。

二、後明に持ち出し、見返しをつける。

五糎巾の布を裏側からあて、五糎の縫ひ代で縫ひ、二糎巾の縁をとり、一方を裏側に折り返してまつりつけ、他方はそのまま開いておく。その時切り込みの終りの處は、和服の衿肩明を縫ふやうにする。

三、腹部を帶丈と同じ寸法に縫ひ縮める。

四、帯を裏側からつけ、二糎五耗の巾に折り、飾りミシンをかける。

五、仕上げをし、穴かゞりをする。出來上り圖のやうに、前と兩脇は、縦穴、後中心は、下前になる方が縦穴で上前の方を横穴にする。



女 兒 洋 服

第四章 女 兒 服

第一 女 兒 服 其 の 一

女 兒 服(其の一)



これは普通簡單服と呼ばれ、裁ち方縫ひ方共に簡單なのが特徴である。且つ材料に少しの無駄切もなく、又積り方もわかり易く、可愛らしく輕快な服で夏服にも冬服にもよい型である。

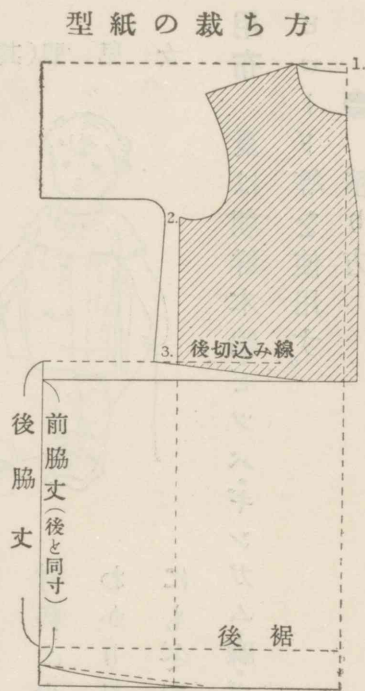
用布 夏は朝鮮木綿・ゼツバ・ギンガム・麻・ポイル等を冬はサージ・カシミヤ・ビロード等を使用す。

● 積り方

背總丈に裾の折り返し(へム)を十三糎程加へて、その二倍と外にポケット布として十五糎を要す(六十八糎巾)但しラシヤ巾の時はその半分を

要す。

① 型紙の裁ち方



上圖の如く、前の原型を當てて裁つ。

衿ぐり及び衿丈は時節により、又好みによつて加減する。

脇の切り込みの線は、後は眞直ぐに、前は原型にならつて斜に

裁ち込む、従つて後裾は上の裁ち込みの差と、前下りの分だけ短くなる。裾の開きは、スリッパの如く、原型の中、二分の一開くのであるが、布巾をいづばいに使ふ時もある、子供服は裾巾の廣い方が運動に便利である。又縫ひ縮めの位置は、下胴線の處に限らず、上下何れでもよい。但し前後の切り込みの差は必ずつける。

③ 布の裁ち方

布を横二つに折り、更に縦二つに前下りの差をつけて、背丈の中央の處で布の輪の方を一糎程後の方が狭くなるやうにずらして折る。即ち肩山の布目が少し斜になる。

袖下と脇に、縫ひ代一糎五耗裾に折り返し十糎位、袖口に四糎位つけて裁ち、最後に衿ぐりをくる。

④ 縫ひ方順序

- 一、脇の下の丸みをのぼして袖下を袋縫にする。丸みの處は、縫ひ代を少なく縫ふと綺麗に出來上る。
- 二、スカートの兩脇を縫ひ合せ、折りは前身頃に返す。
- 三、スカートを縫ひ縮めて胴につける。その時地薄の布で縫ひ代を包む。
- 四、袖口及び裾を豫定の寸法に折り返して、糸を弛くまつるか、或はミシンをかけける。

五、後明に出来上り一糎五耗の縁を左右つゞけて取り廻し、右身頃だけ内側に倒してまつる。
 六、衿ぐりに二糎巾の斜布で見返しをつける。
 七、ポケットを下胴線より四糎下に、左右、又は右側に一つつける。
 八、仕上げをしてスナツプをつける。スナツプのつけ方は凸形を上前に、凹形を下前につける。

第二 女児服(其の二)

女児服(其の二)



この型は三・四才から七・八才までに適當である。裁ち方は第一のと大差はないが、衿ぐりから脇の下に斜に縫ひ目が出来

ることゝ前後の衿ぐりに少々縫ひ縮めがあるのが違ふ。袖口や裾の裁ち方や、縁取りは各々好みにより、自由につけてよい。

一 積り方

前述の女児服に略同じ

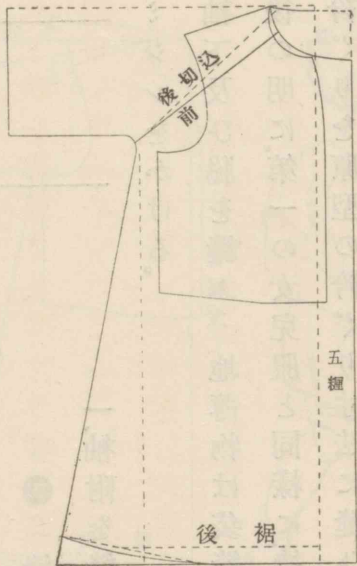
二 裁ち方

前の原型を當て、圖の如く、裾の開きは原型の二分の一開く。

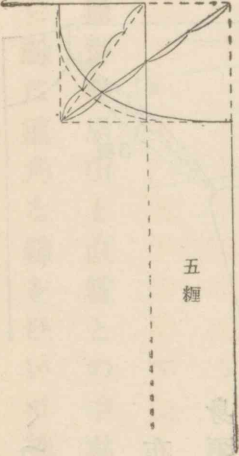
衿ぐりは、出来上り圖の如く縫ひ縮めるため、中央に五糎出し、上圖の如く五糎の角に向つて斜線を引き、その四分の一だけくる。

袖附の斜線は後は肩から一糎離し、前は肩から二糎五耗程下り中央で三糎程圖の如

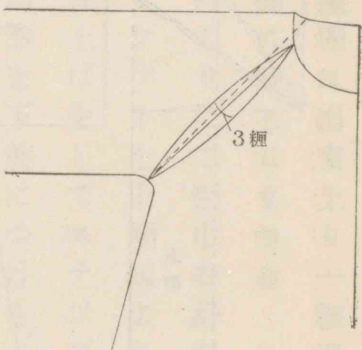
型紙の裁ち方



衿ぐりの伸し方



袖附のつまみ方



ミシンをかける。

くつまむ。

③ 布の裁ち方

布の裁ち方は第一と同様である。但し袖と身頃を切り離して裁つてもよい。

④ 縫ひ方順序

一、袖附を縫ひ合せ、縫ひ代は袖の方に返し、飾り

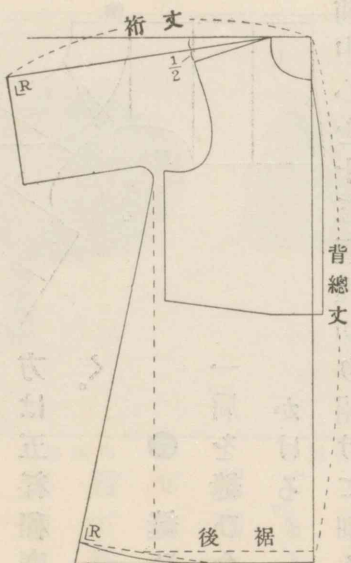
- 二、袖下及び脇を縫ふ。地薄物は袋縫、地厚物は割り縫とす。
- 三、後の明に、第一の女兒服と同様に、持ち出し及び見返しをつける。
- 四、衿ぐりを原型の衿ぐり寸法に縫ひ縮めて、配合のよい斜布で縁をとる。
- 五、袖口及び裾を折り返してまつるか、又は出来上り圖の如く形をつけて裁ち、斜布で縁をとる。

第三 女兒服其の三

女兒服(其の三)



身頃の裁ち方

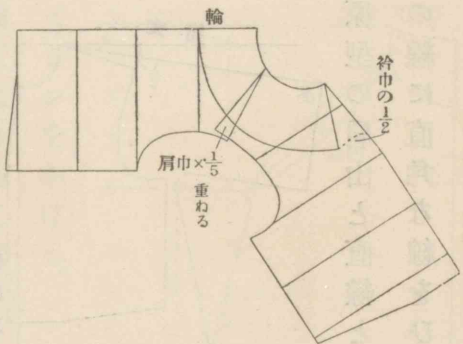


この型は三・四才より十二・三才までの子供に適す。又僅かの裝飾によつて婦人服にも應用が出来る。

① 裁ち方

其の一、其の二の裁ち方と大差はない。圖の如く肩下りをつける。前原型の肩山と直線との中點と肩先を結び、それをのぼして衿丈を定め、その線に直角な線をひいて袖口寸法を定める。その他は前に同じ。

衿の裁ち方



衿の裁ち方 後原型と前原型を袖ぐりの方で肩巾の五分の一重ね衿巾は第一線位までとし、前方は五耗程廣くして中心より衿巾の二分の一開く。

縫ひ方順序

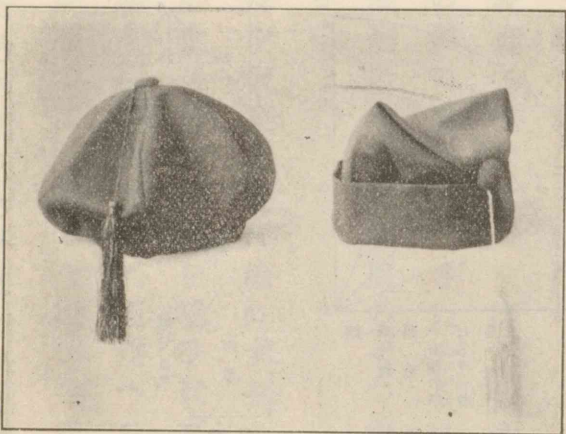
- 一、肩を縫ひ合せ、折りは前に返して飾りミシンをかける。
- 二、前中心を十五糎程切り開けて細く縁をとる。
- 三、袖下及び脇を縫ひ合せる。
- 四、衿を表裏縫ひ合せ、身頃の中心と衿の中心を合せ、衿の上に斜の見返し布をのせてミシンをかけ、縫ひ代を包んで身頃にまつりつける。
- 五、ポケットをつけ、好みの飾りをつける。



第五章 男女児帽子

第一 六つ接ぎ帽子 (男女児)

帽子の圖



大黒頭巾 男児帽子

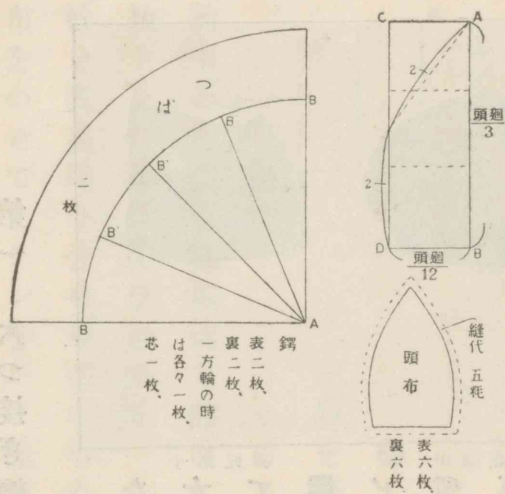
この帽子は夏冬何れに用ひても差支へない。平凡であるが可愛らしい形で男児、女児何れにも用ひられ、又婦人用帽子にしてもよい型である。

用布 夏はピケリンネル、アルバカ、麻、冬はビロード、サージ等すべて洋服に用ひる地質で拵へる。

裏地は毛襦子、寒冷紗、ネンスーク等を用ひる。飾りにはリボン、コード(捩り紐等)を用ひる。この型は普通頭布も、罽も共色にする。

るが色の調和さへよければ、鏝の裏、或は頭布等に別布を用ひてもよい。

方 裁 布 頭



● 積り方
 表布は六十八糎巾で丈九十糎、但し七才以下は五十糎位要る。
 裏布は七十五糎巾で三十糎位を要す。
 頭廻り普通寸法は八才を五十三糎とし、八才以下は八糎づゝ減じ、八才以上十五才までは一糎づゝ増す。但し子供によつて例外もあるから實際を計ることは一番正確である。取寸の時は、弛みを二糎五耗程加へる。

裁ち方

頭布 圖に示す如く、A Bを頭廻りの三分の一とし、B Dは頭廻りの十

二分の一とする。

A Bを三等分して各々二耗づゝの丸みをつける。

鏝 頭布のA Bと同寸の弧を畫き、A Bの三分の一を巾とする。

縫ひ方順序

- 一、表裏各々六枚づゝ接ぎ合せ、表は割り、裏は片返しにする。その際上部の斜の處をのばさぬやうに注意する。
- 二、表裏の中心を和服の七つ留のやうに留め、その外、縫ひ目を二・三個所とぢる。

三、鏝を表裏、芯共に輪にする。縫ひ代は全部割る。

四、芯を裏鏝に、周圍を縫ひ代だけ控へてとぢつけ、表布を中表に合せて周圍を縫ひ、表を二耗程控へて裏をかけ、飾りミシンをかける。

五、頭布の表と鏝とを縫ひ合せ裏布でまつる。注意、鏝布は裏を弛め加減六にして鏝の返りをよくする。

六、仕上げをして各自好みの飾りをつける。

第二 大黒頭布（女兒）

この帽子は四五才から十二三才の女兒に適する型で布も僅かて出来るから洋服の裁ち落し等用ひて作る。

用布 ビロード・サージ等が多く用ひられる。

一 積り方

六十八糎巾で五十糎、裏布も表と同様である。

二 裁ち方

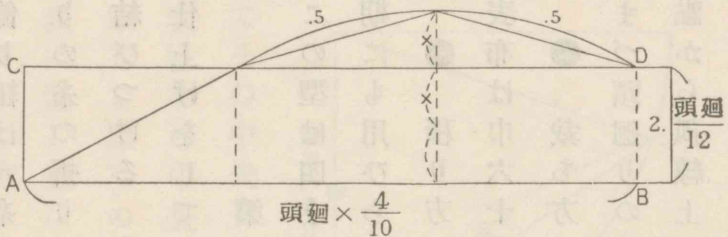
頭廻り取寸に一糎五耗の弛みを加へる。

ABは頭廻りの十分の四とする。これは、深さにゆとりがある爲である。

ADは頭廻りの十二分の一とし、更に縁の巾として二糎を加へる。

ABを三等分し、BDの二分の一巾を廣げ、圖の如く五耗の丸みをつけて裁つ。

型紙の裁ち方



三 布の裁ち方

周圍に一糎の縫ひ代をつけ、縁は更に三糎出す。

裏布は周圍に一糎をつけ、縁の方は型紙通りに裁つ。

但し縁に別布をつける時は型紙の二糎を出した處を

一糎として裁ち、縁布を更に六糎巾で頭廻り寸法の布

を裁つ。

四 縫ひ方順序

一、表裏の布を各々六枚接ぎ合せ、縫ひ代は表は割り、裏

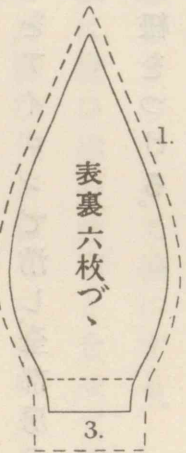
は片返しにして、中央

をとち、更に縫ひ目を

二、三箇所とちる。

二、縁布を二糎巾に折り

まげてまつる。



三、直徑二糎五耗位の木釦を共布で包み、頂上に縫ひつける。
 四、飾り紐は穴糸一匁を一米位に一本切り、それを四本に撚り合せ、次に残りの糸の折りぐせをアイロンで消し、全部房の長さに畳み、撚つた糸に結びつける。

五、仕上げをして飾り紐をつける。

第三 男兒帽子

この型は四才から六七才の子供にふさわしい型で、布によつて何れの時期にも用ひられる。

● 積り方

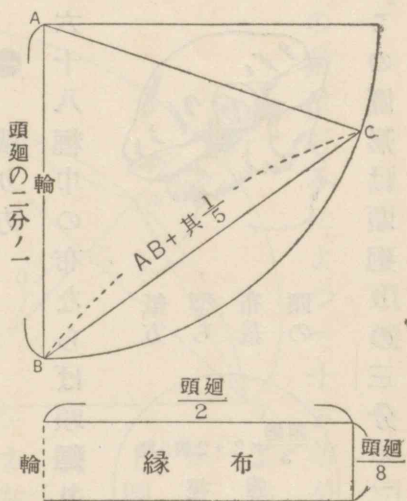
表布は巾六十八糎で丈五十糎位。裏布は表と同巾で四十糎位。

● 裁ち方

まづ頭廻りの二分の一の弧を畫く。

B 點から孤線上に頭廻りの二分の一に更に弛みとして五分の一を加へ

頭布の裁ち方



てその中央を表裏とちておく。

二、表縁布の中央に芯をとちつけて輪にする。

三、頭布を縁布の寸法に縫ひ縮め、縁布と合せて縫ふ。

四、表に返し、縫ひ合せた縫ひ代を縁布の中に入れ、その端を芯の中心にとちつけてまつる。

五、大黒頭布の如く、くるみ釦と飾り紐を作り仕上げをし、縫ひ目を内側に

てCに標をつけAと結ぶ。布を裁つ時は一方A・Bを輪にしてA・Cに縫ひ代を一糎つける。裏布も同様に裁つ。縁布は圖の寸法に一糎の縫ひ代をつけて裁つ。

● 縫ひ方順序

一、頭布を各々縫ひ合せ、縫ひ代を割つ

第四 女兒帽子

して角先を折りまげて飾りをつける。
圖に示す帽子は、裁ち方縫ひ方共に簡單で、手縫でも容易に仕立てることが出来る。

用布 夏はポプリン・ピッケ・メリンス、羽二重等を用ひ、冬はサージ或は洋服と同地質のものを選ぶ。

● 積り方

六十八糎巾の布ならば頭廻りの長さに十糎加へたものとする。外に

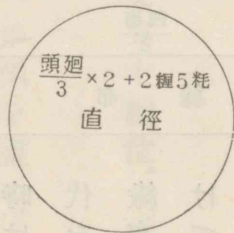
一糎巾のリボン一米と別に花を作る柔かい飾り布を十九糎程要す。布地は前の帽子に同じ。

● 型紙の裁ち方

出來上りの圖



紙方
型紙
布裁
頭の



この圓形は頭廻りの三分の二に二糎五糎を加へた直線の圓にしてお

く。この圓周より頭廻りを差引いた残りをかげ襞にする。

襞の數は、好みによつて十六等分でも二十等分でも、或は三十二等分でも

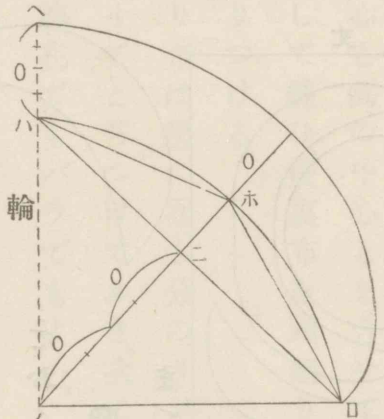
よい。

かげ襞は表襞の數によつて等分する。

上圖は十六の襞にする圖である。

襞の疊み方 まづ表蔭の印の境の處からつまみ、又その次に次の境の處へその山を當てて順次に疊む。(圖はあとにあり)

鏢型の裁ち方



● 鏢の型取り方

一、輪を左にしておき、左下角をイとしてこのイロ、イハの長さを同寸にして二線の對角線を引く。對角線の長さは頭廻りの二分の一より二糎五糎を減じたものである。

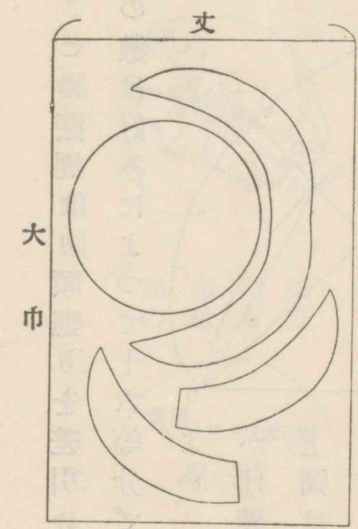
二、イからロハの中央へ線を引きイニとし、イニを三等分してその三分の

鏝を裁ち切つて開いた圖



一をホまでのばし、ハホ、ロホを結ぶ。
 三、ハロの十分の一位をふくらみとしてハホ、ホロを丸める。
 四、イニの二分の一をハより上に出して鏝巾とし、圖のやうに形を作り、尙、へよりへハの四分の一位おとしておく。

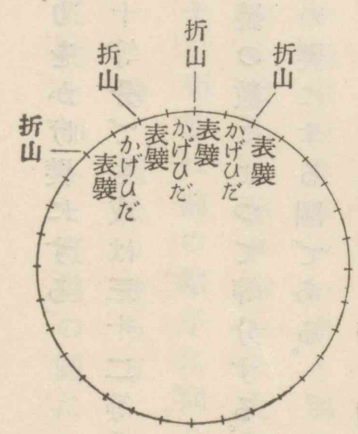
裁ち方綜合圖



縫ひ方順序

まづ頭布の表だけ襞をとつておき、次に鏝を作る。

襞の取り方



鏝は芯布を表鏝になる方に當て、三枚一緒に縫ひ、表に返して五耗の深さに飾りミシンをかけておく。次に襞を取つておいた頭布の右の脇の中心と鏝の中心とを合せて左頭の脇の中心が鏝の突き合せとなるやうにして縫ひ、後裏布を頭廻りだけに縫ひ縮めて表の鏝の縫ひ目の處へまつりつける。

飾り布は、房になる分のリボンを図の如く輪にして、鏝の突き合せの上へおせとちつけておき、次に花を拵へてつける。花は各自の好みによつて梅花でもバラでもよい。

第六章 男兒服

男兒服も一・二才の内は女兒服と同じ型でよいが、三才位からはツボンを
をはき、上衣をつける。

普通上衣とツボンを同地質の布で一組として拵へる時と、又ツボンは稍

地厚の布を選び、上衣は比較的薄物を使ふこともある。

男兒服出來上り圖 (其の一)



圖に示す上衣は、衿とカフス及びツボンを稍地厚の布を用ひてある。ジャバラは隨意でよい。そのつけ方は第九章の

女學生のセーラー、スタイルの中に説明してある。

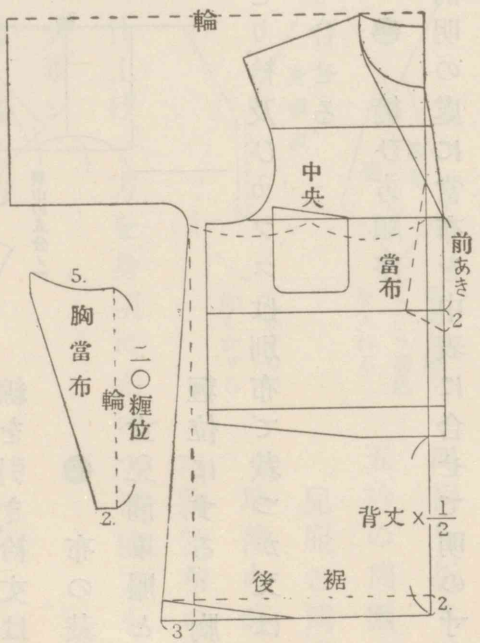
用布 夏は縞キヤラコギンガム・ゼツパー・ピッケ・縮麻など、冬はサージメルトンなどを用ひる。



女 兒 洋 服 女 兒 オ ー バ コ ー ト 男 兒 洋 服

男兒服 (其の一)
一、上衣

男兒服上衣の裁ち方



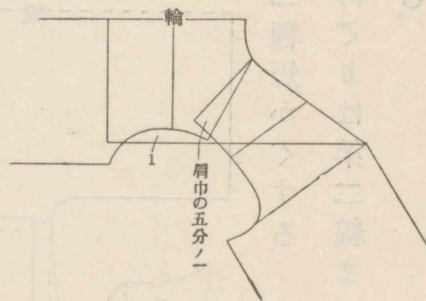
● 裁ち方

第四章の簡單服に略同じ。

- 一、袖及び身巾の定め方は簡單服と同じく、袖丈は好みにより半袖或は七分袖・長袖等隨意でよい。
- 二、身丈は上胸線から背丈の二分の一をのばし、後は前より

二、纏短かくする。
三、衿ぐりは第二線まで斜に裁ち落して、更に第三線まで前明の標をつける。

方の裁ち方の衿



らとり、衿及びカフスは別布で裁つか、又は同地質の時は身頃に縫いつけて裁ち合せる。

縫ひ方順序

一、前明の處に當布を中表に合せて、明の寸法にミシンをかけ、切り込みを入れて表に返し、周圍に飾りミシンをかけ、角の二糎位の間を穴かがりのやうに丈夫にかゝつておく。

四、前明を縫ふために點線の如き形の當布をとる。衿は女兒服の丸衿と同じく、後と前の原型を肩巾の五分の一重ね、衿明の止りから背に平行に線を引き、衿丈は第二線までとする。

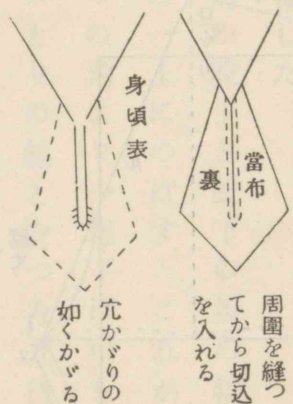
布の裁ち方

女兒簡單服と同じく、たゞ裾の折り返しを四糎位にする。胸當と當布は袖下の裁ち落とし

二、ポケットを左前身頃に付ける。

身頃ミ當布を中表に合せる

圖の當布



三、袖下から脇を袋縫にする。
四、裾を折り返してミシンをかける。

五、衿の周圍を折りまげてミシンをかけ、女兒服と同様に衿附をする。但し衿布が地薄の時は裏衿をつける。

六、胸當布の周圍を折りまげ、ミシンをかけた仕上げ、一方を身頃に締けつて、他方をスナップがけにする。

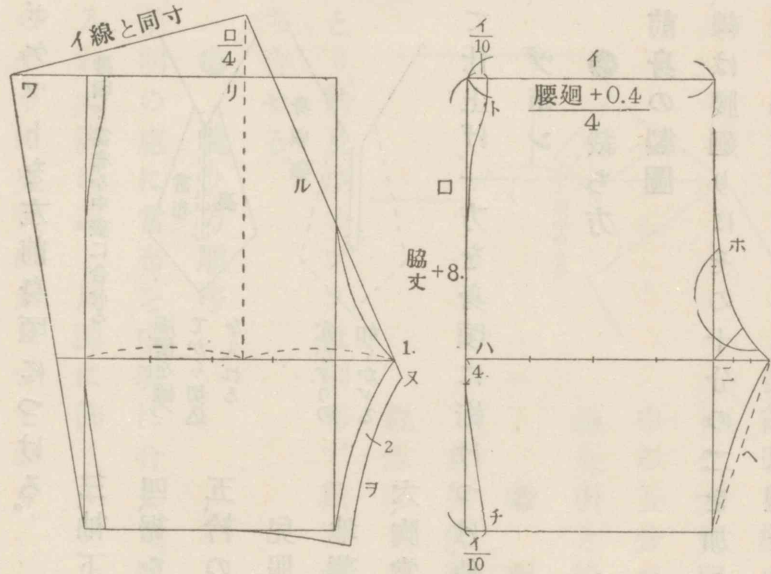
二、ツボン

裁ち方

前身の製圖

イ、線は腰廻りにその十分の二を加へたものの四分の一とする。
ロ、線は脇丈(ドロワース丈)に八糎を加へた寸法とする。

半ツボンの裁ち方



ハ、口線の三分の一より四糎上に直線を引き、股上股下を定める。
 ニ、ハ線の四分の一を横にのぼす。
 ホ、前股上を圖の如く畫く。
 ヘ、股下に斜線を引き、中央で五糎の丸みをつける。
 ト、イ線の十分の一を四糎位真直ぐに引き、口線の三分の一まで自然に消す。
 チ、チもト線と同様に裾口のくせをとる。
 後身の製圖 この圖は前身の製圖と重ねて製圖し、その下に一枚の

紙をおき、前型をルレット又は篋で下にうつせばよいのであるが、今は説明の混雑を避けるために前身の型を別に寫し、その上に製圖することにした。

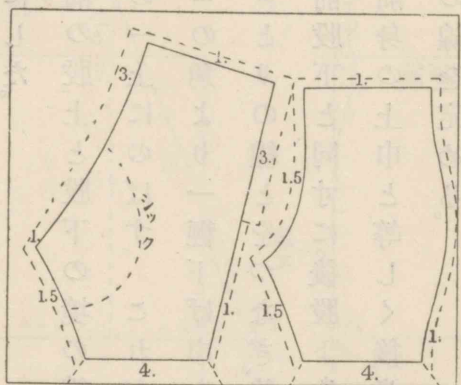
リ、前の股上と股下の境の線の中央に垂線を立て、前身よりもイ線の四分の一上にのぼす。これが後身の中央になる。
 ヌ、ニの角より一糎下げ、巾を二糎出す。
 ル、ヌとりの線とをつなぎ、後股上の線をきめる。
 オ、前股下と同寸に後股下をきめる。裾の線は股下の方で少し下げる。
 ワ、前身の上巾と等しく後身の上巾を定め、裾のイ線の角とつなぎ後の脇の線を定める。
 これで前後の型紙が裁てたのである。

● 布の裁ち方

圖の如く布を二枚重ねて前後の型を裁ち合せる。

点線と数字は縫ひ代又は裾の折り返し寸法である。
 この外に前の三日月形、後のシツク及び六糰巾の腰布を裁つ。但し腰布は毛織子、シツクは表布又は毛織子何れでもよい。

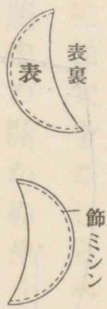
布の裁ち方



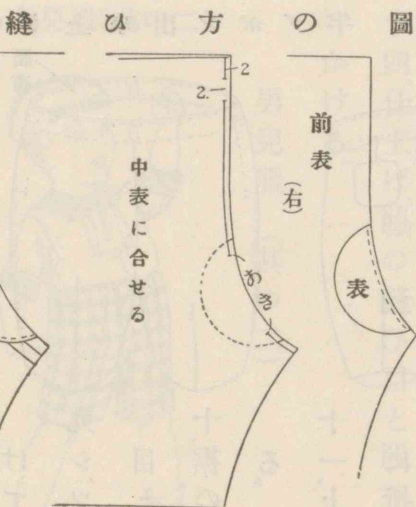
各部分を完全に裁ち切り、切躰をかけ要所々々を正確にする。
 ズボンの仕立方には色々あるが、ここには極めて簡単に出来るのを説明する。
 六才以下の子供には、普通大人のズボンのやうにすると、釦のかけはづしが面倒であるから、蛙股といつて前の下部に六糰程の穴をあけ、その内側に、三日月形の布を當てる。

縫ひ方順序

一、月形當布を表裏縫ひ合せ、表に返して飾りミシンをかけておく。



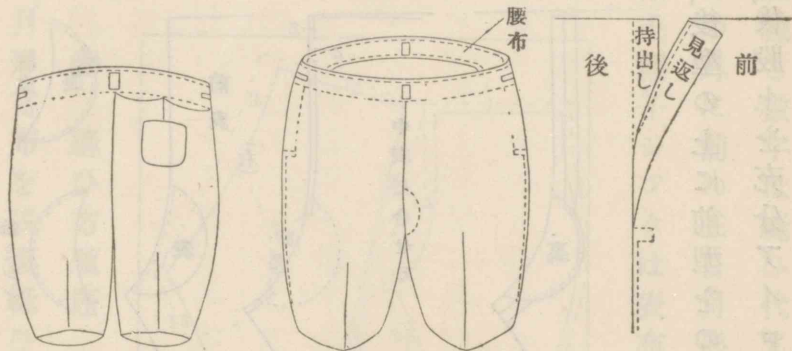
二、前右身に當布をつけ、左に倒す。
 三、前股上を上裁ち目より二糰縫つて、その下を二糰あけ、次に當布の端から一糰先まで縫ひ、前明の下を更に縫ひ合わせる。上の二糰は釦穴となる。



四、前の脇明に布の伸びないやうに一糰巾位の吊布を入れて、縫ひ代を折り返してまつ。脇明の寸法は口線の三分の一より二糰下までとする。
 五、後脇明の持ち出しに出来上り巾二糰五糰の見返し布をつける。

六、後型の上に前型をのせて四糰の飾りミシンをかける。(圖解参照)
 七、後股上を充分アイロンでのばしてミシンを二度かける。

半ズボン出来上りの圖



- 八、股下を兩脇つゞけて縫ひ合せ、縫ひ代の裁ち目はまつるか、又は端ミシン(布のほつれぬやうに一糎五耗の縫ひ代のうち四糎程折りまげ、折り山より二耗程内側にミシンをかけること)をかけて縫ひ目を割る。
- 九、シツクの後の中心を縫ひ合せ、後の股上の縫ひ目と合せて周圍をまつる。
- 十、裾の裁ち目に端ミシンをかけ、折りまげてまつる。
- 十一、上部の裁ち目に六糎巾の腰布をつけ、四糎巾に折りまげて飾りミシンをかける。
- 十二、後身に圖に示す位置に十二糎位のポケットをつける。

- 十三、釦穴をこしらへる。後と前の中心は縦穴、前の兩脇のみ横穴にする。(脇巾の開かぬやうに兩脇の穴の位置に注意すること)
- 十四、仕上げ、脇の縫ひ目と股下の縫ひ目とを合せて疊みつけアイロンをかける。

男児服 (其の二)



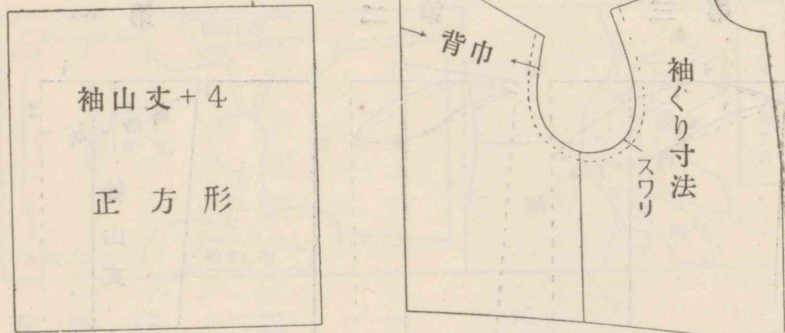
上圖の男児服は三・四才から六・七才までに適する型で、ズボンは裁ち方縫ひ方共に前の説明と同じであるから略し、此處には上衣の製圖及び

裁ち方縫ひ方を説明する。

一、身頃

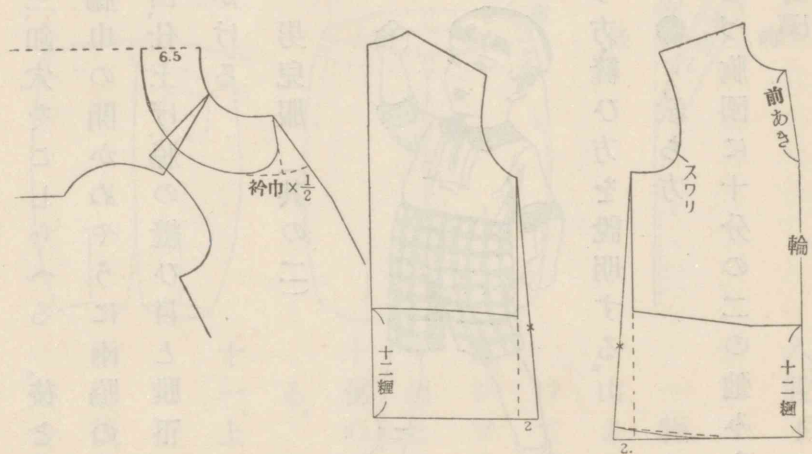
まづ胸圍に十分の二の弛みを加へて、原型を製圖して裁ち始める。

袖の裁ち方



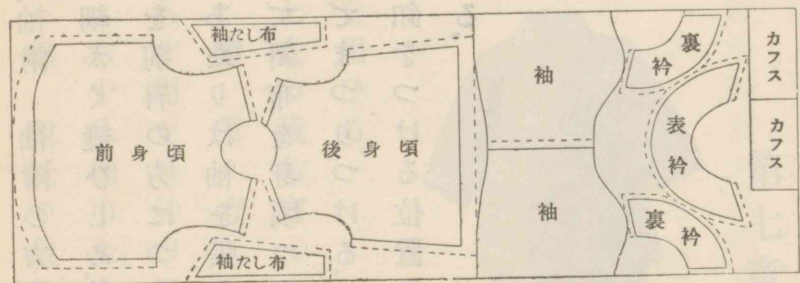
- 袖ぐり寸法は、原型の袖ぐりの裁ち目より八耗内側を計る。
- 袖附寸法は袖ぐり寸法の二分一とし、袖山丈は袖から背巾を減じた寸法とする。
- 1 袖附寸法の三分の一折りまげる(その折り山が袖のスワリとなる)
 - 2 スワリの處で、袖附の三分の一下つた處から斜に袖附寸法を計る。
 - 3 袖山丈を上裁ち目から計る。
 - 4 袖口寸法を袖附寸法より十分の一小さく計り袖附と袖口とに線を引き、そこから折りまげ第二圖の如く、袖ぐり及び袖口を定める。
- イ、袖附を三等分してスワリの三分の一の處へ

裁ち方



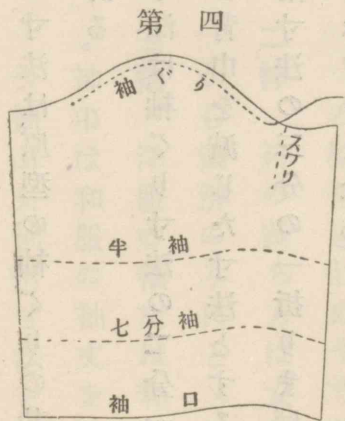
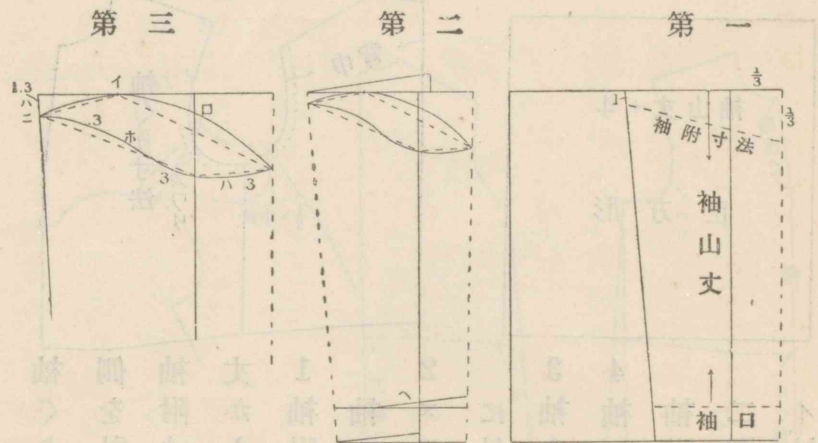
- 1 前原型の中心で十二糎丈をのばし巾は裾で二糎開く。
 - 2 前の明は第二線まであける。
 - 3 後も背の中心で十二糎のばし裾で二糎開く。
 - 4 後脇丈と同寸に前脇丈を定めて巾の中央までで裁ち落す。(前身のスワリの標を忘れぬやうにつけておく)
- 二、衿 衿の裁ち方は、女兒服と同じであるから圖解のみにとめておく。
- 三、袖 洋服の袖丈は和服の袖巾をいひ、又袖巾は和服の袖丈をいふのである。まづ袖山丈・袖附寸法を定める。

裁ち方綜合圖



- 一、袖下を縫ひ、地質により袋縫か伏せ縫、折りはスワリの方に返す。
- 二、カフスを出来上りの袖口より四耗程大きく、巾は適宜好みの寸法に縫ひ合せ、袖口に縫ひつける。
- 三、肩及び脇を縫ひ、折りは前に返す。
- 四、前明に斜布で細く縁をとる。
- 五、衿を表裏縫ひ合せて身頃につける。

袖の裁ち方



- 向つて斜線を引く。
 - ロ、斜線の中央で斜線の十分の一出して丸みをつける。
 - ハ、スワリの處から横に三分の一のぼす。
 - ニ、裁ち目から一糎三耗下げる。
 - ホ、ハとニを二等分して第三圖の如く中央から上下に三耗づゝの丸みをつける。
 - ヘ、袖口をスワリの折り山の方で十分の一の切り上げをつける。
- 以上で袖の型紙

は裁てたのであるが、袖の長さは好みにより適宜に裁ち切る。

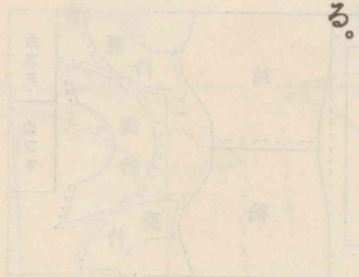
② 布の裁ち合せ方

上圖は六十八糎巾の大體の裁ち合せ方の圖で、袖に接ぎが出来るが、布巾が充分あればつゞけて裁つ。

③ 縫ひ方順序

六、袖附 袖附の方を第四圖の如く縫ひ代八耗の深さに躰糸二本を以て細かく縫ひしめ、袖のスワリと身頃のスワリを合せ、袖山の最も高い處を前肩の方につくやうにして、肩のあたりは袖の方を稍弛めにし、脇のあたりは袖を張り加減にして、かりに縫ひ合せ、表から袖のスワリを見て、斜布を身頃の方にあて、ミシンをかけ、その斜布で縫ひ込みを包んでまつりつける。

七、釦をつける位置に四糲巾の力布をあて、仕上げをしてから釦をつける。



第七章 男児小學生服

男児洋服仕立上り圖



地を用ひる、

上衣の裁ち方

積方

八才用を羅紗巾正方形として、年齢を増す毎に十三糲づゝの増減をする。六十八糲巾ならその二倍とし、年齢を増す毎に二十五糲を増減する。

型紙の裁ち方

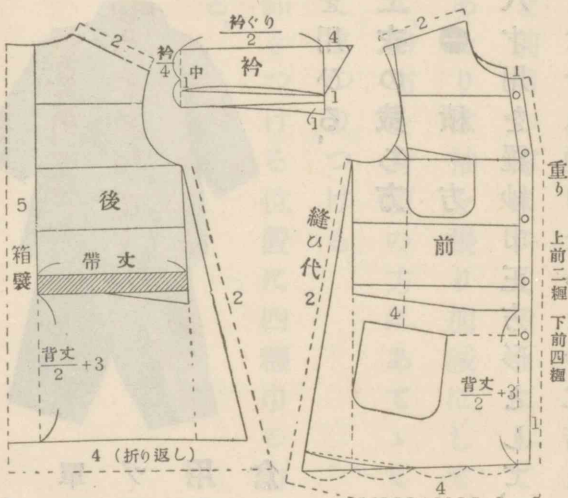
小學校生徒用として可愛らしく、且つ簡單な洋服である。

ツボンは、本股又は、蛙股何れでもよい。

用布 冬は羅紗・メルトン・サージ等、夏は小倉地・セル・アルバカ・麻等すべて男物の洋服

一、身頃の裁ち方

上着型紙の裁ち方



7 鈕の位置は原型の中心に、上は裁ち目より三糎下り、下は下ポケットの口と同じ位置につけ、中間を四等分して五ヶ所に標をつける。

- 1 顎ぐりを一糎下げる。
- 2 前重なりを上前二糎下前三糎とる。
- 3 背丈の二分の一に三糎加へて前中心から丈をのばす。
- 4 裾で巾の三分の一開く。
- 5 胸ポケットの寸法を胸巾の五分の三と定める。
- 6 下ポケットを下胴線から四糎下げ、胸ポケットより二糎大きく、深さは更に一糎深くする。

二、衿の裁ち方

後身頃は前と同様にする。但し背の中心に七糎の箱襞の寸法をとる。

1 衿ぐり寸法の二分の一を横の寸法とし、四分の一を縦の寸法として基礎線を引く。

2 衿先に四糎出す。

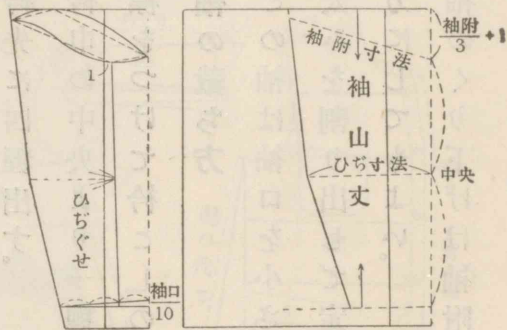
3 衿巾の中央より一糎下と、又衿先は基礎線より上下に一糎づゝの處に標をつけて衿こしの寸法とする。

三、袖の裁ち方

この袖は袖口を小さくするため、袖山丈・袖附寸法・袖口寸法の外に袖の太みを割り出して定める。但し第十二章の女兒外套の二枚袖の裁ち方にしてもよい。

1 袖のくり下げは袖附の三分の一より更に一糎深くして、そこから袖附寸法を計る。

袖の裁ち方



$$\text{袖口寸法} = \frac{\text{袖附寸法} + \text{附} \times \frac{2}{10}}{2}$$

$$\text{脇寸法} = \frac{\text{袖口寸法} + \text{袖附寸法}}{2}$$

- 2 袖山丈を上裁ち目より計る。
- 3 袖口寸法を標す。
- 4 スワリの方の中央で脇の寸法を定めて、二圖の如く折りまげると中央に脇ぐせの皺が出来る。
- 5 袖口をその十分の一切り上げる。
- 6 袖ぐりを女児服と同様にくる。
- 7 袖口を三等分してその三分の一の處と、附の方で一糎スワリの方

によつた處とに直線を引き裁ち落す。

布の裁ち方

- 一 肩脇には一糎の縫ひ代、裾は四糎の折り返し、前は持ち出し寸法の外に一糎つける。衿ぐり、袖ぐりは縫ひ代をつけない。

帯は十糎巾で、長さは後の原型の巾とする。

衿は周圍に一糎の縫ひ代をつけ、表衿は横地に裁ち、裏衿は斜布に裁つ(中央で接ぎ合してもよい)芯は麻の芯地を用ひ斜布にとる。

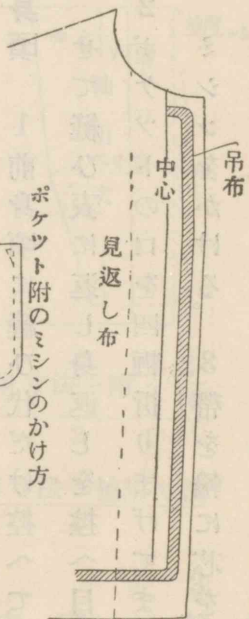
袖は袖下縫ひ代一糎半、袖口四糎、見返し布を十三糎巾位に表布で裁つ。

縫ひ方順序

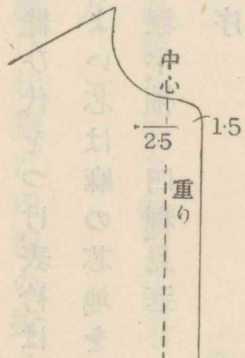
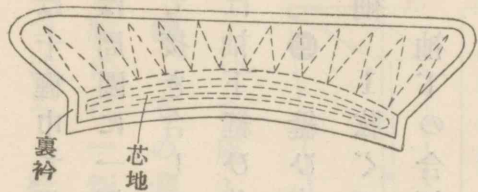
- 一、袖
 - 1 脇ぐせを四糎位の間で縫ひ縮めて、その縮みをアイロンで消し、袖下の合標を合せて伏せ縫或は袋縫ひとする。
 - 2 袖口を折りまげてまつる。

- 二、身頃
 - 1 前身頃に縫ひ代だけ控へて吊布を入れ、見返し布と中表に合せて縫ひ、表に返し身返しを控へ目にして飾りミシンをかける。
 - 2 ポケットの口を四糎折りまげてまつり、その位置にあてて、圖の如くミシンをかける。
 - 3 帯を輪に芯を入れて表に返す。
 - 4 背の箱襷を縫ふ。上は第一線まで下は帯のつく位置を縫ふ。

前身頃の作り方



衿ミシンのかけ方



- 5 縫ひ目を割つておく。
 - 6 帯を兩脇の下胴線の位置に縫ひつける。
 - 7 肩及び脇を袋縫或は折り伏せ縫にして折りは後に倒す。
 - 8 裾を折りまげてまつる(地厚の布の時は、端ミシンをかけたから折りまげてまつる)
- 三、衿 裏衿に芯地をのせて圖の如くミシンでさし、表衿と縫ひ合せ、身頃の中心と裏衿の中心を合せて縫ひつけ、上前に鈎をつけ、下前に輪のホックをつけ

て表衿をまつりつける。

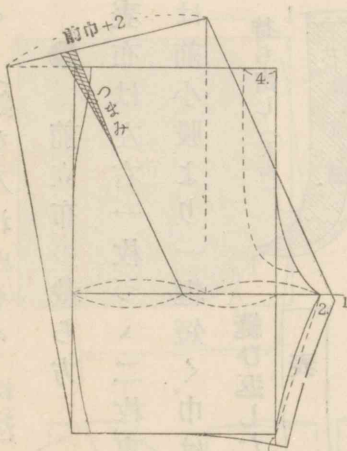
四、袖附 袖の左右及びスワリに注意して斜布を身頃の方にのせてミシンをかけ、縫ひ代を斜布でくるみまつりつける。

仕上げをして釦附、穴かざりをする。

穴の位置は裁ち方圖に示した通りで、大きさはボタン直径より四耗大きく穴をあけてかざる。

半ズボン(前立ポケット附)の裁ち方

半ズボンの裁ち方



七八才からは前立及び天狗持ち出しをつけ、即ち本股にし、後にくせをとる。裁ち方は蛙股と大差はないが、後身につまみくせをとる。上圖のやうに後腰巾を前巾よりくせの分として、二程程廣くとる。

くせの分はつまんで縫ひ、後の方に倒して

おく。(鉄を入れぬやうに注意すること)

一 前立布の裁ち方

表布は左右一枚づゝ二枚、裏布は右一枚、左二枚、芯地二枚。丈は前小股より一糎短く、巾は四糎位にする。

縫ひ返したる圖

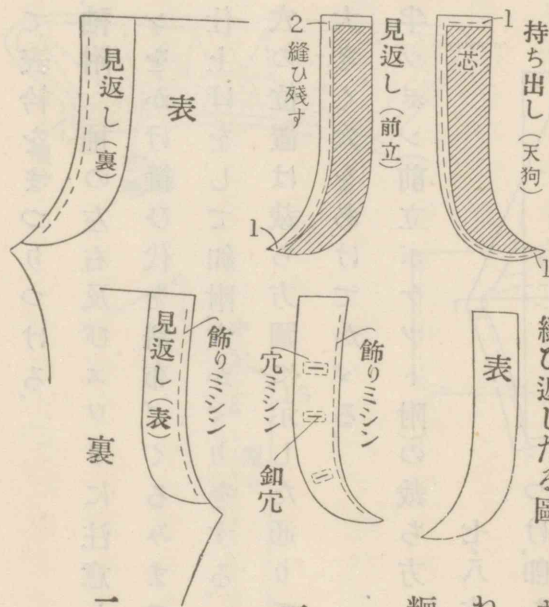
ポケット布は、キヤラコ或は毛襦子、ねずみスレキを用ひ、前股上より三糎長い正方形の布を裁つ。

二 縫ひ方順序

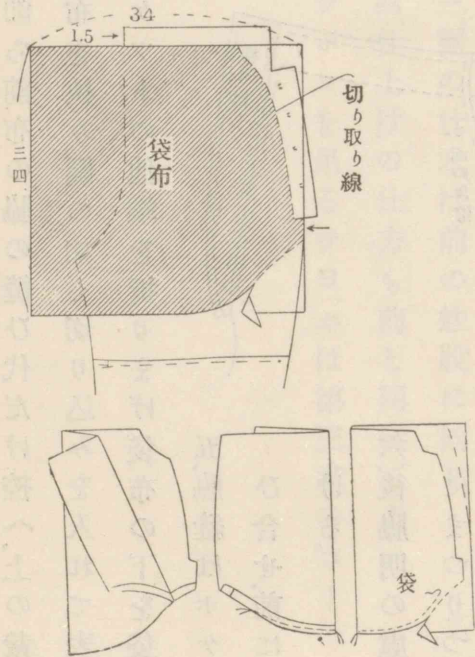
一、持ち出し(天狗)の表布に芯地を添へ、裏布と合せてミシンをかけ、表に返す。

二、前立布の表にも芯地のせ、裏布と中表に合せ持ち出しの反対側に返す。

見返し作り方の圖



袋布のつけ方



ミシンをかける、その時上を二糎下を一糎縫ひ残しておく、表に返してミシンをかけ、圖の如く穴の位置を定めて穴ミシンをかけ、穴かゞりをする。

三、前左身に見返し布をつける、前立と同様に上下を縫ひ残す。

四、ポケット附をつける、ポケット布の一端を前布の脇につける。

即ち前布の脇の縫ひ代だけ控へ、上の裁ち目より一糎下つてポケット布を挟み、圖の如く切り込みを入れて表からミシンをかける。次にポケットの他端を折りまげ、袋布の下を袋縫にする。

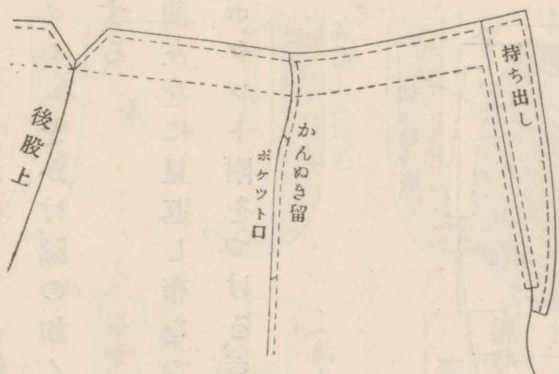
五、脇縫はポケット口明の上と下とを前後縫ひ合せ、前に倒して表から飾りミシンをかける。

六、後脇明の處の布に切り込みを入れて袋布にまつりつける。

七、前立を前左身の見返しについてゐる裏側に少し控へて、躡で押へておく。

八、右前身と持ち出し布の表とを縫ひ合わせる。但し下を一糎縫ひ残り、裏布は折りまげて腰布の飾りミシンと同時にかける。

飾りミシンのかけ方



九、六糎巾の腰布をつける。

十、後のくせをつまみ、背の方に折りまげ飾りミシンをかける。

十一、兩足の股下を各々縫ひ合せて割つておく。

十二、後股上から前の小股、即ち前立の下を縫ひ合せて縫ひ目を割る。後の股上は充分伸して二度ミシンをかけ、前立の下は門留をしておく。

十三、裾の仕末は前の蛙股に同じ。

十四、仕上げの仕方も前と同様でよい。ズボン吊るチヨッキは第三章のコasett、ウエストと同様でよい。

第八章 運動シャツ及びビツボン下

第一 運動シャツ



運動シャツ出来上りの圖

この形は小學生の終りから中學時代の者に
適す。少し念入りに仕立てて上着の代用とし
て運動の時等に用ひる。
用布 縞キヤラコ又は無地キヤラコ・縮本ネル
等を用ひる。

その他カフスの芯地として白芯を使ふ。

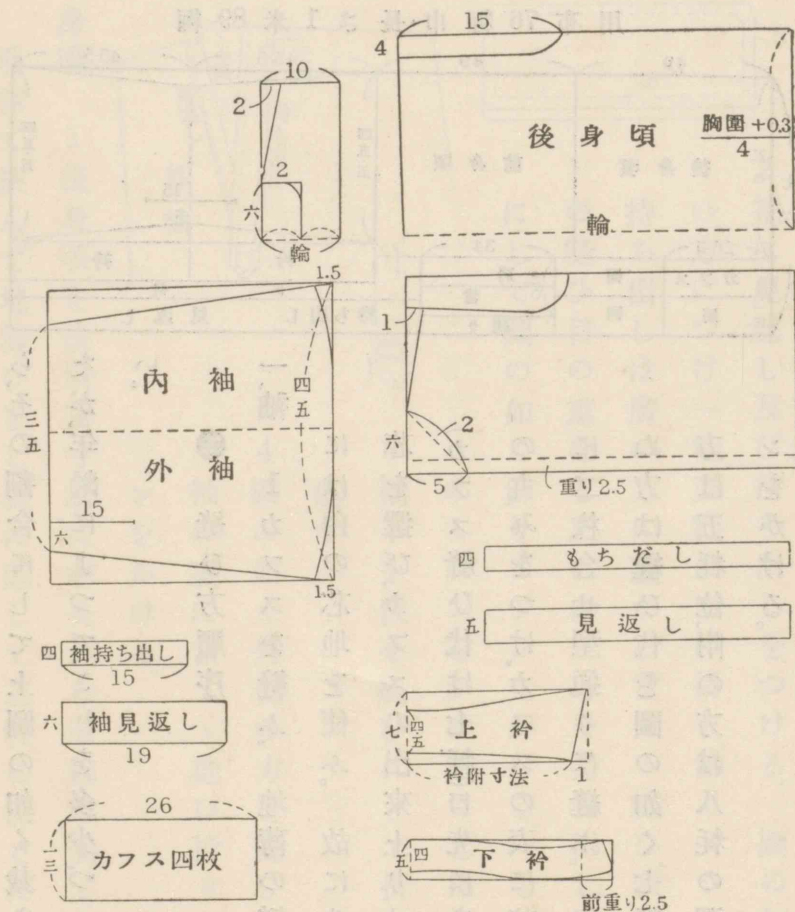
一 積り方

七十六糎巾で一丈八十五糎と芯地二十五糎を要す。

二 裁ち方

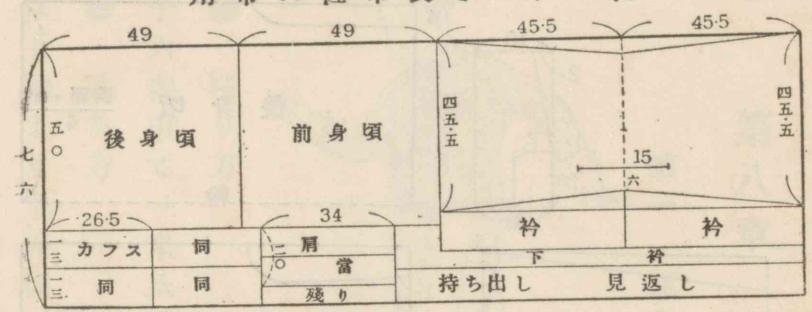
丈は下胴より十五糎下まで巾は胸圍に二十糎の弛みを加へ、その二分

型紙の裁ち方



の一が前後各
々の身巾とな
る。
その外、肩當布
は裸體胸圍の
二分の一とす
る。大體の割
り出しは右の
如くであるが、
この型のシャ
ツを着る年齢
は、十四五才が
標準であるか

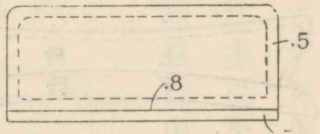
布の裁ち方
用布 76 糎巾・長さ 1 米 89 糎



一、袖 縫ひ方順序

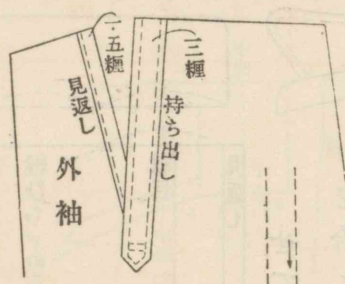
一、袖 1カフスを縫ふ。地薄の皺になり易い物には白の芯地を使ふ。故に生地に適当した芯を選び、カフスの出来上り寸法に裁ち切り、(カフス縫ひ代は七糎)口先になる方に一糎位の丸みをつけ、カフスの表に芯地をのせ、中表に二枚合せ型通りに縫ふ。但し芯地の入らぬ方は縫ひ代を圖の如く七糎折りまげて三方は五糎位、附の方は八糎の深さに飾りミシンをかける。

カフスの縫ひ方



2 袖に見返し及び持ち出しをつける。圖の如く見返しは狭い方につけ、一糎五耗の巾に折り、飾りミシンをかける。持ち出しは広い方に裏から當て、縫ひ、表に返して見返しの縫ひ目の重なるだけに一方を持ち出して折り、三糎の巾にして圖の如く飾りミシンをかける。この際二本の横どめミシンをかけることに注意する。

袖の見返しのつけ方

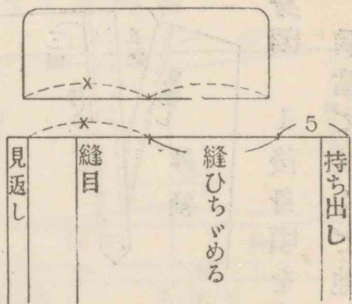


二、身頃 1 後身頃を後肩當寸法に中央から五糎の間で縫ひ縮め、二枚の肩當で挟んで地縫ひをし、表に返して五耗の深さに飾りミシンをかける。

3 袖下を伏せ縫ひにして折りは外袖の方に返す。

4 圖の如く外袖の方を縫ひ縮めてカフスを袖の裏に當て、縫ひ折り返して飾りミシンをかける。

カフスの付け方



2 前身頃の上前に出来上り圖の如く、表側に三
糎巾に見返しをつけ、下前は裏側につけて各
各飾りミシンをかける。

三、衿

1 上衿を表裏縫ひ合せて、周圍に飾りミシ
ンをかける。下衿の中央と上衿の中央を合

せて縫ひつける。

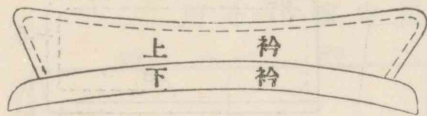
2 衿と身頃を縫ひ合せ、縫ひ代は衿の方に返してミシンを
かける。

四、袖附

袖の方を五糎出して身頃を合せ、伏せ縫ひにして表
から飾りミシンをかける。袖下の縫ひ残してある部分か
ら脇につけて伏せ縫ひをする。

五、裾を二糎巾の三つ折りにする。

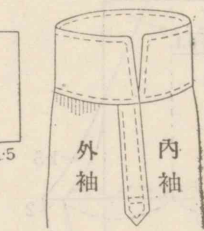
衿の縫ひ方



六、ポケットを十二糎位の大きさに折りまげて左身頃につける。

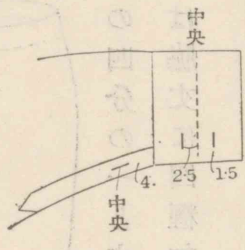
仕上げをして釦附、穴かがりをする。

釦は前中心に四個、袖口に一個づつ、と奥の見返しの處に一個、都合四個
つける。



前中心の釦穴は横穴、その他は十糎位の間隔をおき
中心に二糎の縦穴をあける。

穴の位置

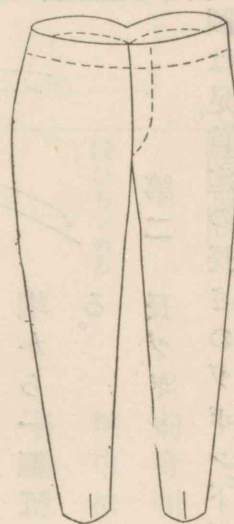


袖の釦穴は袖の見返しに一つ、これは四糎奥にか
ける。
カフスの穴は、巾を二つ折りにして、山から二糎五糎、
端から一糎五糎入った處から奥に二糎の穴をか
ける。

第二 長ツボン

上圖は足首迄の長さのツボン下である。

ツボン 出来上りの圖



裁ち方が前の半ツボンと僅か違ふのみで縫ひ方は全部同じである。

● 裁ち方

て、その四分の一とする。

イ線は腰廻りに一割の弛みを加へ

口線は脇丈に四糎加へる。但し脇丈は下胴線から足首までを計る。

ハは口線を三等分して、その

三分の一を股上とする。

ニは口線の右角より二糎内

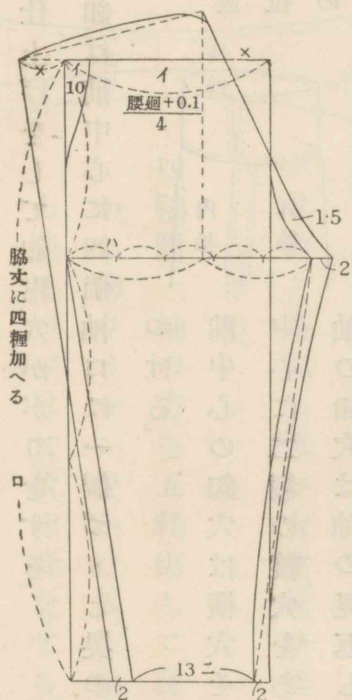
側に入り、其處から十三糎と

計り足首の太さとする。

その他は全部半ツボンに同

じ。

ツボン 裁ち方



この丈は好みにより長さを適當に裁ち切れればよい。

● 縫ひ方順序

縫ひ方順序及び方法は半ツボンに同じ。但し前立の處は持ち出しを

つけ、上前は見返し布のみにして釦が上にあらはれてもよい。

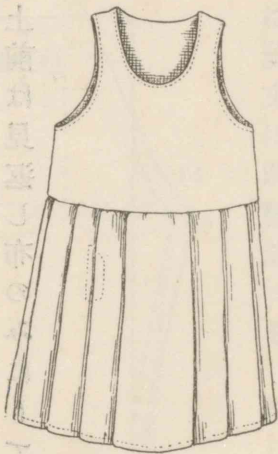
第九章 女學生服

第一 エプロン、ドレス

エプロン、ドレスはシャツ、ウエストの上に着るもので、小學生、女學生等の發育盛りの者の女兒服として最も適當な型である。即ち洋服の汚れ易い衿や袖が無いので下に用ひるシャツのみを洗濯すればよいから極めて便利である。

又下に着るシャツで調節すれば夏冬いづれに用ひてもよい。たゞ注意の要ることは、シャツとエプロン、ドレスとの色の配合である。白のシャツを用ひるのは一番無難である。

エプロン、ドレス
出來上りの圖



用布 夏はアルバカ、地厚の木綿、綿リンネル等、冬は紺サーヂラシヤ(格子

縞等)を用ひる。

一 積り方

スカート丈に折り返しを加へてその四倍とす。六十八糎巾にて、但し十四・五歳になると胴廻りが大きいいため、襞が浅くなるからスカートの巾は三布半か四布を使ふこともある。

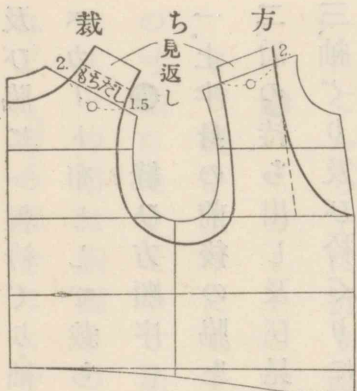
二 裁ち方

出來上り圖のやうに、上半身と下半身に別れる。

上半身の裁ち方はスリップと同じで、ただ肩をスナツプ掛けにするため、圖のやうに持ち出しをつける。但し布の都合で肩明に限らず背を明けてもよい。又衿明の形も角でも丸でもよい。

三 布の裁ち方

上半身を前後共に中心を輪にして、その他は裾



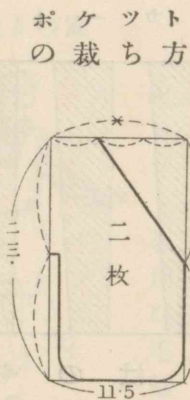
及び脇に一糎、衿ぐり袖ぐりには五糎の縫ひ代をつけて裁ち、残りの布をスカート布として裁ち切れればよい。

縫ひ方順序

- 一、上半身の前後の脇を袋縫又は割り縫ひにする。
- 二、肩の持ち出し及び見返しを折りまげてまつりつける。
- 三、袖ぐり及び衿ぐりに二糎巾の共色の斜布で見返しをつける。その時衿ぐりの明はのばさぬやうに注意する。
- 四、スカート布を接ぎ合せて縫ひ目は割り裾を豫定の寸法に折りまげる。地薄物はそのまゝに、地厚物は端にミシンをかけてまつりつける。すべてまつる場合は糸を少し弛めてまつるやうに注意する。又木綿物はそのまゝ表からミシンをかけてもよい。
- 五、襞を折る。
- 六、スカートの右脇に下胴線から四糎下げて襞の奥にポケットをつける。

スカートを折る時は、なるべくこの位置に縫ひ目のくるやうに折ればポケット口を切りあける必要なく、又奇麗に仕上げられる。

七、ポケットの裁ち方。ポケットの裁ち方は圖のやうにする。但し寸法は年齢によつて加減する。

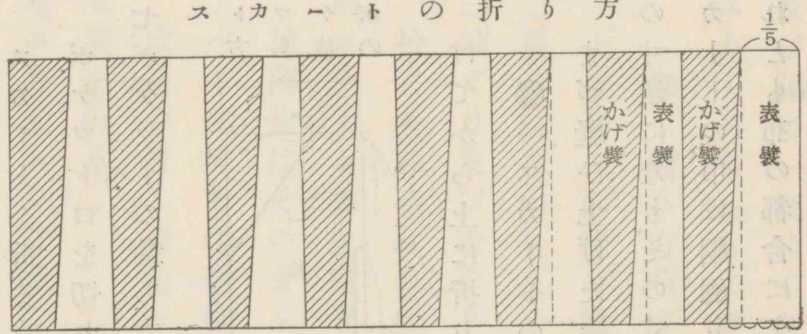


八、スカートの中心と、上半身の中心とを合せ、スカートの方に斜布の見返しをのせて縫ひつけてから上に折り返してまつる。

五 スカートの折り方

まづ縫ひ上げた上半身の出来上りの胴の布を計る。この寸法が表襞の寸法になり、その寸法を減じた残りが、かげ襞となるのである。故にスカートの巾は胴廻りの三倍、即ち折り上げた胴廻りの處は三重になるけれども、布の都合によつて積り方の時に記したやうに布巾で定めてもよ

スカートの折り方



い。襷の数は六・八・十或は尙細いものもあるが、ここには八つ襷を説明する。前中心の襷巾は少し廣く、その他の七つの襷は全部同寸法にする故に出来上つた上半身の胴廻りの寸法を計つて、その二分の一の寸法を胴巾とし、スカート布も輪に折る。襷の巾 前中心は胴巾の五分の一で裾の方は圖のやうに更に其四分の一開く。その他の襷巾は胴巾の七分の一、裾で、その四分の一内外開く。かけ襷巾は胴巾を減じた残りを八等分した寸法である。

襷の折り方についての注意

- 一、折り山の斜のものを真直の處に折る故に和服用の袴と反對であること。
- 二、縫ひ目が表襷にあらはれぬやうに寸法をかけ襷で

加減する。

三、襷數によつて、表襷、かけ襷の割り出し方が違ふが、これを標準にしてどんな襷でも折ることが出来る。

四、左右の襷に不同のないやうに注意する。又標の付け方は木綿物は篋又はルレットを用ひ、毛織物はチョークで標をつけて更に糸標をつける。

標がついたなら、まづ折り山をアイロンでしつかりと押へてから、上下及び中央を和服の袴のやうに襷をかける。

第二 シヤツ、ウエスト

この服は圖に示したやうな形であつて、デヤンパー(袖のつかない洋服)やエプロン、ドレスの下に

シヤツ、ウエスト出来上りの圖



着る服で、男女兒及び女學生の服として極めて便利である。夏は半袖位

にし、冬は長袖にする。
用布 夏は木綿縮・メリンス・アヤモス・富士絹等、冬はセル・フランネル等を用ひる。なるべく洗濯のきく丈夫なものがよい。

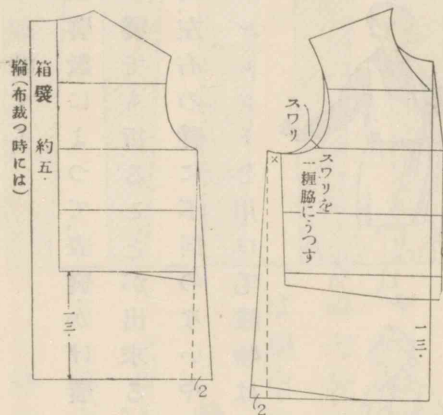
一 積り方

背丈に十五糎加へてその四倍とす。但し夏物で半袖にする時は三倍半位でよい。

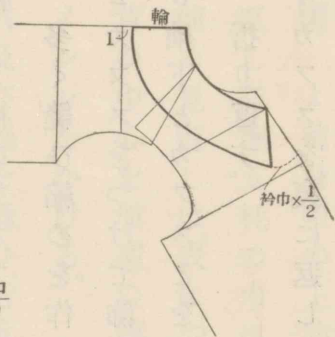
二 裁ち方

裁ち方は第六章男兒服其の二の處で詳しく説明しておいたから、こゝでは圖解によつてその違ふ點のみを述べる。
一、前中心を眞直ぐにして、見返しをつけるので胸ぐせの寸法の差を、圖の如く袖ぐりと脇で補ふために、袖ぐりを脇の方に

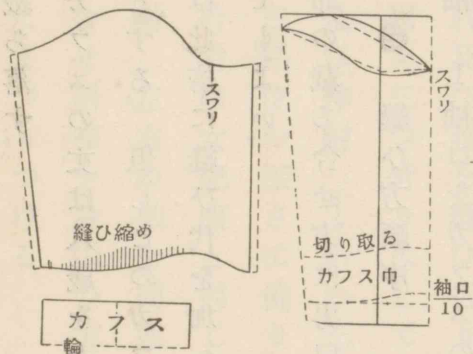
身頃の裁ち方



衿の裁ち方



袖及びカフスの裁ち方



胸ぐせ寸法だけ出す。

二、前中心で十糎位丈をのぼし、脇巾は二糎開く。

三、衿ぐりを第一線まで斜に下げる。

四、後の背の中心に巾にゆとりを作るため箱襞をとる。

五、丈を前と同寸法に背の中心でのぼし、巾は同様に裾で二糎開く。

六、衿は前に同じく衿明にならつて巾を定め、中心から巾の二分の一開く。但し衿巾は自由であるが、後中心の巾より前の方を稍廣くする方が出来上りの形がよい。

七、袖の裁ち方は男兒服と同じでよい。但しカフス巾だけ袖口の切り上げの形にならつて

裁ち落す。

八、カフスの丈は八歳を十糶位とし、巾はその二分の一で五糶の出来上りとする。但しこのカフスは袖先を縫ひ縮めてつけるのであるから布は此倍に縫ひ代を加へて裁つ。又カフスを袖の上に折り返してついてもよい。

布の裁ち合せ方は男兒服を参照する。

縫ひ方順序

- 一、袖 1 袖口をカフスの寸法に縫ひ縮める。その位置は肱になる方に多く縫ひ縮めを作る。
- 2 カフスをつけて飾りミシンで押へる。
- 3 袖下とカフスとを續けて縫ひ、地厚物は割り、地薄物はスワリの方に折り返す。
- 4 カフスを裏に返してまつる。

二、身頃

1 前身頃の上前の方は、六糶巾の見返し布を、裏からつけて表に返し三糶五糶の巾に折り、左右に三糶の深さの飾りミシンをかけ、下前の見返しは、表につけて裏に折りまげ飾りミシンで押へる。

2 背の中心を原型の第一線まで縫ひ、箱襞の寸法を割り、縫ひ目に飾りミシンをかける。

3 肩及び脇を縫ひ、折りは前に返す。

4 裾を三つ折りにしてミシンをかける。

三、衿及び衿附

1 衿の三方を縫ひ表に返し、地薄物はそのまま、地厚物は三糶位の深さに飾りミシンをかける。

2 衿附は女兒服と同じであるから説明を省く。

四、袖附 左右の袖を間違へぬやうによく見定めて、身頃と袖のスワリとを合せ、斜布を身頃の方にのせて袖をつけ、斜布で縫ひ代を包んで縫ひ目にまつりつける。

五、仕上げ 仕上げをして釦附、穴かがりをする。
 六、紐附 下胴線の處に紐をつける。又は裏側に三糰巾の布をつけ、その中にゴムテープを入れてもよい。

第三 セーラー、スタイル(水兵形)

セーラー、スタイルは男兒は八才以下のものに、女兒は八才以上に用ひ、又婦人服としても使用する。殊に女學生の通學服として輕快で、且つ仕立てがゆるやかなため、運動に便利であり、又日本人に一番ふさわしい形である。

用布 冬はサージ・メルトン、夏はアルバカ・カツラギ・ピッケ・リンネル・麻・ポップリン等を用ひる。

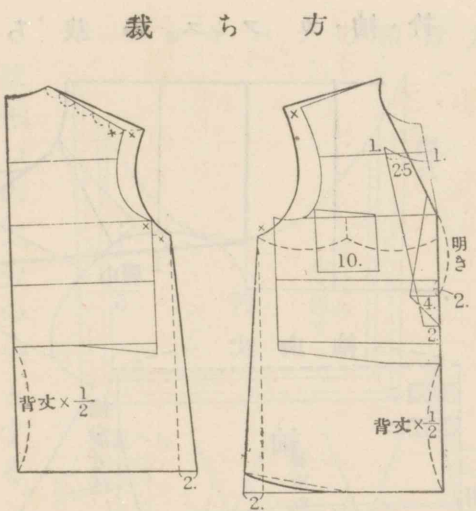
一 積り方

上衣丈背丈にその二分の一加へるの四倍(但し六十八糰巾)

附屬品 ジャバラブレード五米、スナップ三個。

その外胸飾りとして、ネクタイ或はリボンを要す。

二 型紙の裁ち方

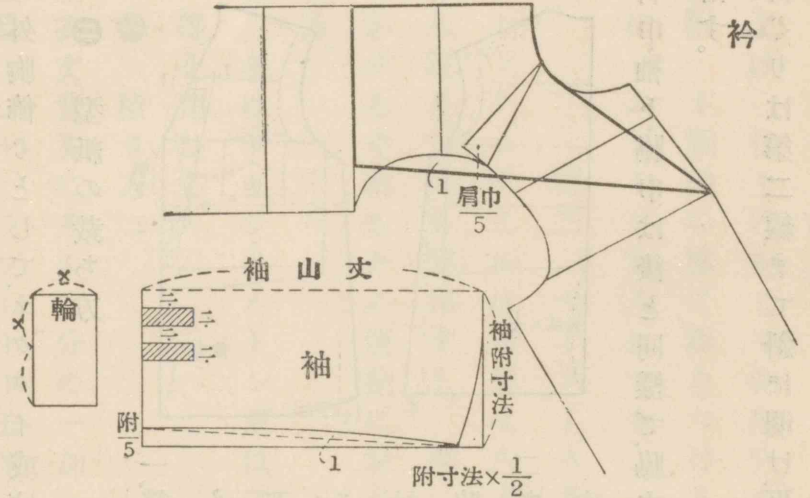


一、後身頃の裁ち方 圖の如く丈を背の中心で、背丈の二分の一のばし、肩巾をその五分の一だけ肩先に出して肩巾を廣げる。脇巾及び袖下も同寸にくり下げて、袖ぐりを圖の如く稍淺く切る。
 二、前身頃の裁ち方 背丈の二分の一を前中心でのばす。

肩巾、袖下、脇巾は後と同様で、脇丈も後と同寸にして、巾の中央まで裁ち落す。

衿ぐりは第二線まで斜に明け、更に第三線より二糰下まで明ける。但

衿・袖・カフスの裁ち方



衿

附寸法 $\times \frac{1}{2}$

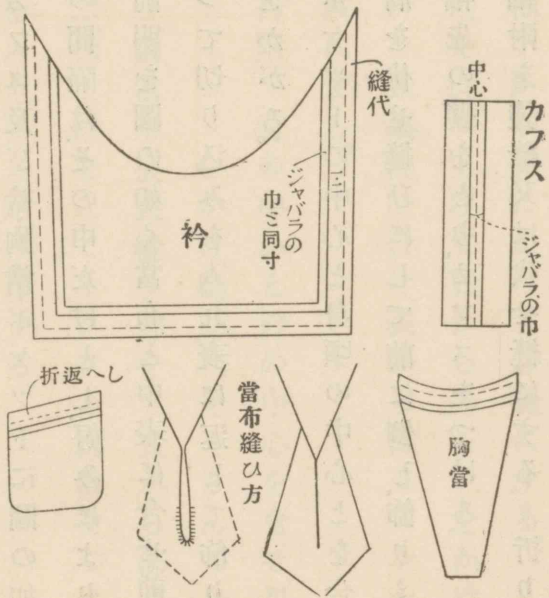
し此處は縫ふ時に當布を當てゝから裁ち切る。

胸當布は圖に示す寸法で型を取り、前中心を輪にして型紙を裁つ。當布も型紙同様に裁ち切る。

三、衿の裁ち方 原型を圖の如く肩巾の五分の一重ね、後原型第一線の處で一糎出し、前中心の第二線と結びつけ、それを延長して後の第二線までを衿巾とする。

四、袖及びカフスの裁ち方 袖山丈・袖附寸法を定めて圖の如く一方輪にして型紙を裁つ。

ジヤバラの付け方



は袖口の二分の一とする。

布の裁ち方

後も前も中心を輪にして肩及び脇に一種、裾は四糎位の折返しをつけ、袖ぐり・衿ぐりは縫ひ代なしにする。又カフス及び胸當布は、周圍に一種の

袖附の方を三等分して、上から三分の一に向つて附寸法の五分の一だけ袖をくり落とす。

袖口も附寸法の五分の一を裁ち落とす。更に袖口に襷をとるため圖の如く山から二糎づゝの處に標をつけて二個所をつまむ。

カフス寸法は、袖口からつまみの寸法の四糎だけ減じた寸法で、巾

縫ひ代をつける。

ポケットは口の方に四糎其他は一糎づゝつける。衿は周圍に一糎つけ、衿ぐりには縫代をつけない。

④ 縫ひ方順序

- 一、カフス及び衿・胸當・ポケットに圖の如く、ジャバラをつける。ジャバラの間隔は、その巾だけとし、好みにより二本或は三本つける。
- 二、前明を圖の如く當布と中表に合せ、前明寸法だけ四糎位の縫ひ代に縫つて切り込みを入れ、表に返して飾りミシンをかけ穴かゞりの如く角をかがる。
- 三、ポケットの中心と身頃の中心とを合せて、第二線より下につける。
- 四、肩を伏せ縫ひにして前に倒し、飾りミシンをかける。
- 五、袖先の襷をとり、カフスをつける。
- 六、袖附を袋縫又は伏せ縫にする。折りは袖の方に返す。

七、袖下から脇にかけて袋縫にする。

八、裾を折り上げて表からミシンをかける。

九、衿を表裏縫ひ合せ、表から飾りミシンをかける。但し裏衿を稍つり加減にする。

十、衿附 背の中心と衿の中心を合せ、見返し布(二糎五耗)を衿の上のせてミシンをかけ、縫ひ代をくるんで身頃にまつりつける。

十一、胸當も裏表縫ひ合せて表から飾りミシンをかける。

十二、仕上げをしてネクタイ胸當をつける。胸當は一方を拵けつけ、他方をスナップがけにする。

スカートは仕立て方はエプロン・ドレスと同様で、スカート吊をキヤラコ又は毛襦子等で作る。又襷を作らずただ布を縫ひ縮めるだけでもよい。

第十章 男學生服

詰衿は大人物を基として製圖する故、その方法は少し子供服とは異つてゐるが、前に述べたことを充分會得すれば容易に出来るのである。

用布 夏は小倉地、冬はサージラシヤヘル等を用ひる。

十二 積り方

一七八才は一米六十糎、十四五才から大人物は二米、六十八糎巾)

附屬品

- 一、芯地(麻)上衣丈に凡そ十五糎を加へた寸法(前腰尾錠に用ひる)
- 二、裏地(上衣丈に二十糎を加へる)
- 三、縞サテン、凡そ八十糎(大人物に限り袖裏腰裏にこれを用ひる)
- 四、袋地、凡そ六十糎(ツボンかくし)
- 五、甲斐絹、凡そ五十五糎(ツボン膝當に使用する、スレキを用ひてもよい)

六、鼠スレキ凡そ七十五糎、これはかくしの袋布等に用ひる。

七、釦、大五・小四、他にツボン釦一人分。

八、衿ホック、尾錠金具カラ釦。

子供物は右の三・四・五は不要で四・五のズレキで充分である。又麻小倉類の場合は芯は白芯を用ひ、右の七・八にキヤラコ(又はズレキ)凡そ一米あればよい。

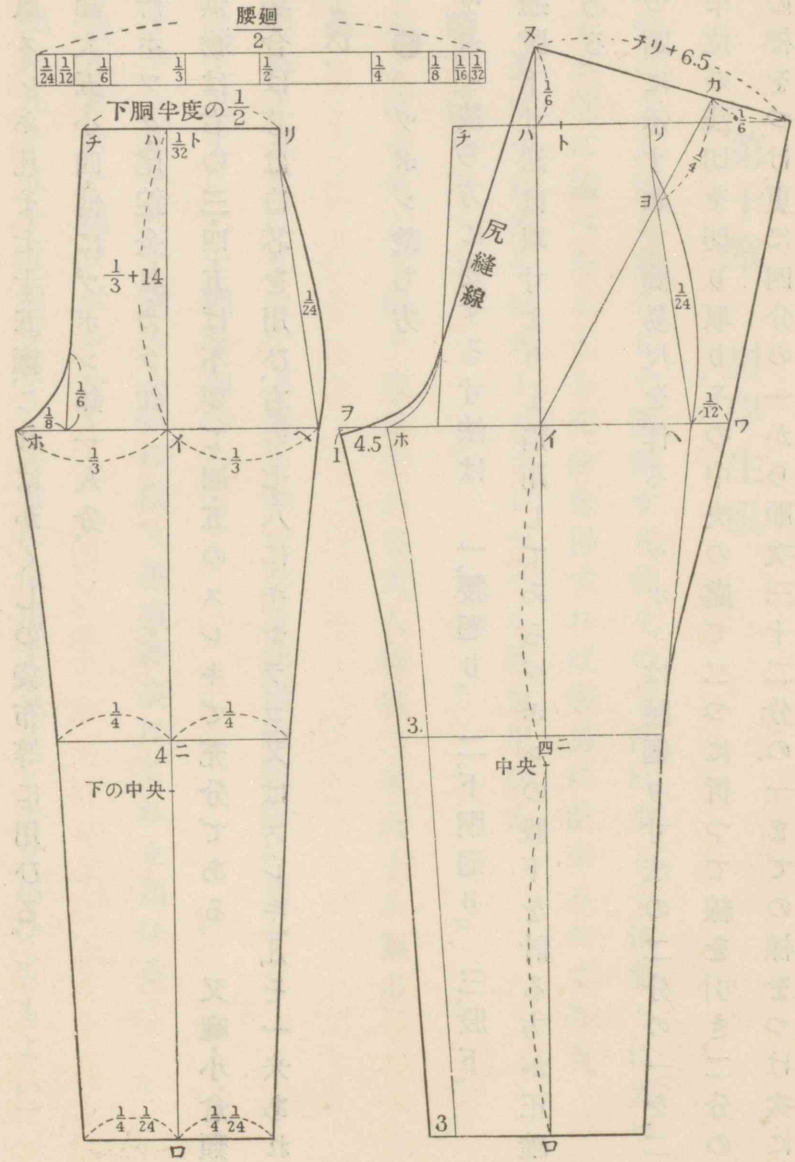
一 ツボン裁ち方

ツボン裁ち方に要する寸法は 一、腰廻り。 二、下胴廻り。 三、股下。

普通股下寸法は、取寸よりも着用してゐるツボンの股下を計る方が正確である。

まづ圖に示す如く簡易尺を作る。ツボンは腰廻り寸法の二分の一を、二糎巾位の殘切を切り取り、その中央の處で二つに折つて線を引き、二分の一の標をつけ、更に四分の一から順次三十二分の一までの標をつけ、次に

ズボン裁ち方



全體を三等分して三分の一の標をつけ、更に又六分の一から二十四分の一までを書き記しておく。以下裁方説明に單に何分の一とある場合はすべてこの簡易尺の分數である。

最初にイを基點として左右及び上下へ十字線を任意の場所に引く。

一、イ・ロ間は股下寸法でロより横線を引く。

二、ニは股下の中央より四糎上る。

三、イ・ハ間は三分の一に十四糎加へたもので、同じく左右へ横線を引く。

四、ハ・ト間は三十二分の一。

五、チ・リ間はトを中心として下胴の四分の一を計る。

六、イ・ヘ間、イ・ホ間は共に三分の一。

七、ニの左右へ四分の一。

八、ロの左右へ各々四分の一より二十四分の一を減じたもの。

九、ホの右方へ八分の一をとり、それよりチに向つて線を引き、六分の一上

大つた處から前ぐりの線を引く。十、リより四種位真直ぐにして、その他は圖の如く稍彎曲した仕上げ線を引く。

以上でツボンの前身の製圖は、出來たわけである。後はこれを基礎として製圖することは、男兒半ツボンと同じであるから、圖解の中に記入するのみで説明は略しておく。

この製圖によつて作られた型紙は、その周圍はすべて約八耗の縫ひ代がついてゐる。但し後身の股上だけが出來上り寸法になつてゐる。

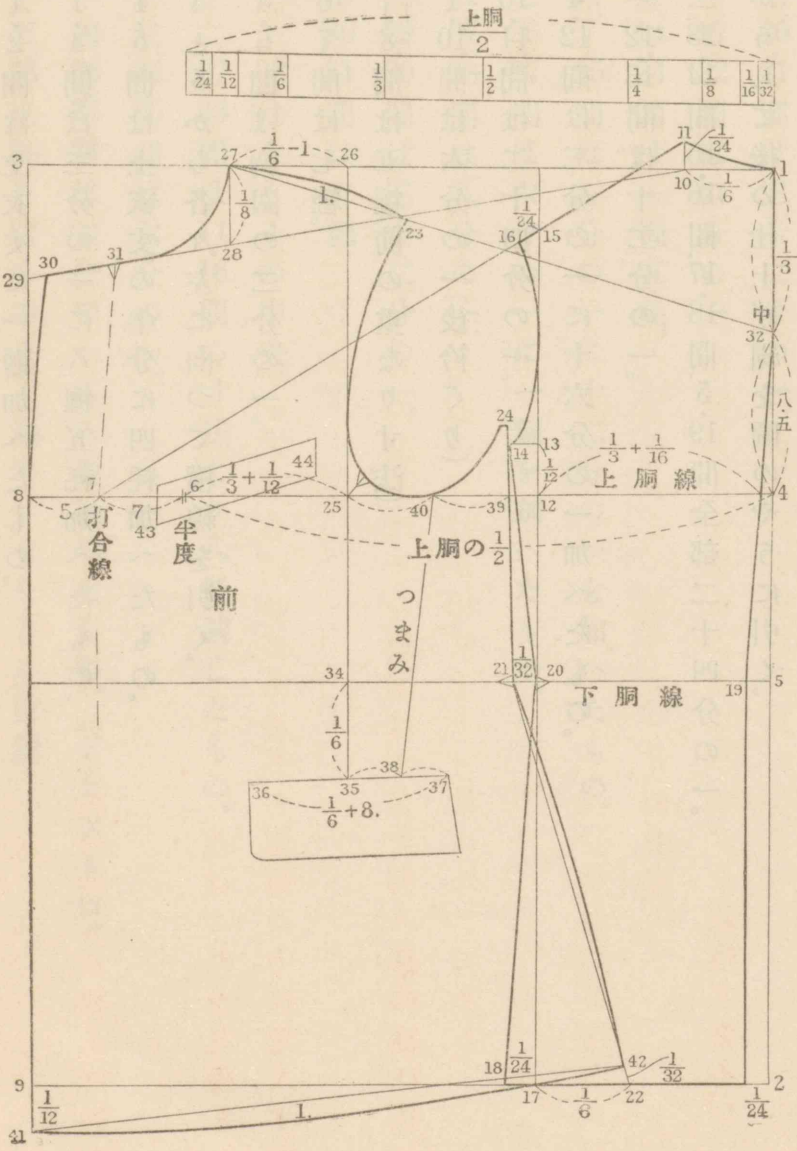
③ 詰衿上衣裁ち方

上衣裁ち方に要する寸法。

一、上胸(胸圍)。二、下胸。三、上衣丈。四、衿丈。五、袖山丈。

最初に胸圍の二分の一の簡易尺を作ることはツボンと同様である。合身一、を基點として二及び三へ直角線を引く。

上衣の裁ち方



- 一、1・2 間は上衣丈に一糎加へたもの。
 - 二、1・4 間は三分の一に八糎五耗加へたもの。
 - 三、1・5 間は上衣丈の半分に四耗加へたもの。
 - 四、4 と 5 から各々左に向つて横線を引く。
 - 五、4・6 間は胸圍の二分の一。
 - 六、6・7 間は七糎。
 - 七、7・8 間は五糎(前の重なり寸法)
 - 八、1・10 間は六分の一(後衿ぐり)
 - 九、10・11 間は二十四分の一。
 - 十、4・12 間は三分の一に十六分の一加へたもの。
 - 十一、12・13 間は十二分の一。
 - 十二、13・14 間、15・16 間、17・18 間、5・19 間全部二十四分の一。
- かうして後の仕上げ線を圖のやうに引く。

- 十三、20・21 間は三十二分の一。
- 十四、17・22 間は六分の一。
- 十五、14・24 間は一糎五耗。
- 十六、7・25 間は三分の一に十二分の一を加へたもの。
- 十七、26・27 間は六分の一に一糎を加へたもの。
- 十八、27・28 間は八分の一。
- 十九、29・30 間は三十二分の一。
- 二十、30・31 間は五糎。
- 二十一、32 は 1 と 4 の中央。
- 二十二、27・23 間は 11・16 間の寸法より八耗減じたもの。
- 二十三、34・35 間は六分の一。
- 二十四、36・37 間は六分の一に八糎加へたもの。(ポケット口)
- 二十五、38 は 35 と 37 の中央。(脇のくせをとる位置)

二十六、40は25、39間の中央。
 二十七、9、41間は十二分の一。
 二十八、22、42間は三十二分の一。
 二十九、43、44間は六分の一に五糎を加へたもの。
 以上で身頃の製圖は出来上つたのである。

身頃もツボンと同じく、周圍はすべて八糎の縫ひ代が型紙の内にある。但し背の中心だけが出来上り線になつてゐる。脇の裾は前身と後身とが重なつてゐることに注意して型紙を裁つ。

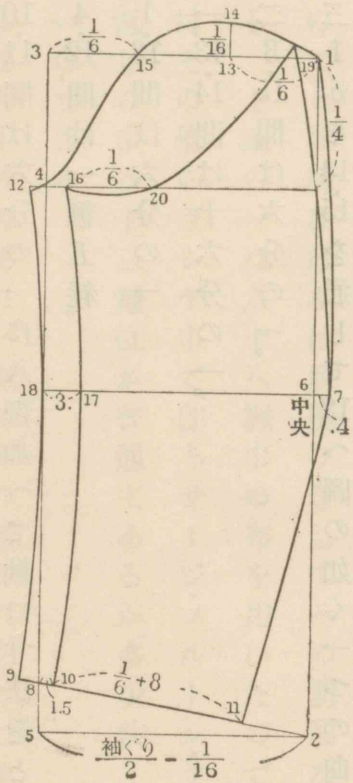
又下胴線の脇の合標と袖との合標(スワリ)を忘れぬやうに注意すること。最後に衿ぐり線の八糎内側を測つて見て、衿丈と同寸か否かを調べて過不足のある時は前肩及び打合線で加減をする。

袖の裁ち方

袖製圖の分數は上衣の簡易尺の分數である。

- 一、1、2間は袖山丈。
- 二、1、3間は袖ぐり寸法の二分の一から十六分の一減じたもの。
- 三、3、4間は四分の一。
- 四、6、6は1、2間の中央。
- 五、6、7間は四糎出す。

裁ち方圖(三)



六、5、8間は十二分の一袖口を切り上げる。

七、 $8 \cdot 9$ 間、 $8 \cdot 10$ 間は一糎五耗、

八、 $10 \cdot 11$ 間は六分の一に八糎加へて袖口寸法をとる。

九、 $4 \cdot 12$ 間は一糎五耗。

十、 $1 \cdot 13$ 間は六分の一。

十一、 $13 \cdot 14$ 間は十六分の一。

十二、 $3 \cdot 15$ 間は六分の一。

十三、 1 から $14 \cdot 15$ を通して 12 へ圖の如く一つの曲線を畫く。

十四、 $4 \cdot 16$ 間は一糎五耗。

十五、 $18 \cdot 17$ 間は三糎。

十六、 $1 \cdot 19$ 間は二十四分の一。

十七、 $16 \cdot 20$ 間は二十四分の一。

十八、 19 から上部へ一糎程突き出して圖の如く曲線を引く。

この圖は内側が下袖、外側が外袖となる。

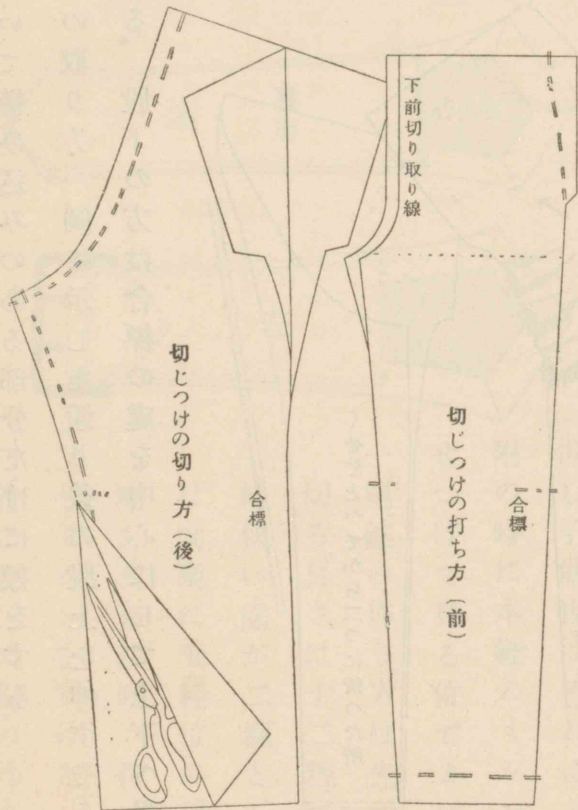
布の裁ち方

布を裁つ前に麻及び小倉類は水に約十分間位浸して後、半乾きの時に布目正しく歪めぬやうにアイロンをかける。芯地等も皆この方法による。毛織物は細かく霧を一面に吹き、アイロンを徐々にかけて地伸しをする。型紙裁ち合せ方、及び縫ひ込みの附け方は圖の通りであるが、前にも記した如く上衣の背とズボンの後股上とをのぞく外は全部八糎縫ひ代がある。この縫ひ込みは假縫ひをしてその窮屈な處を補ふための寸法である。上圖の一は六十八糎巾の布を用ひたのである。

二はその倍のラシヤ巾で、即ちサージ・メルトン・ラシヤ等の裁ち方である。見返しの巾は十三糎位が普通であるが、多少狭くとも又はぎが出来てもよいのである。

衿布は衿丈に四方に一糎づゝの縫ひ代をつけて裁つ。此外ポケットの口布の如き小切は取つてゐないから裁ち落し布は大切に保存しておく

切り袷の打ち方



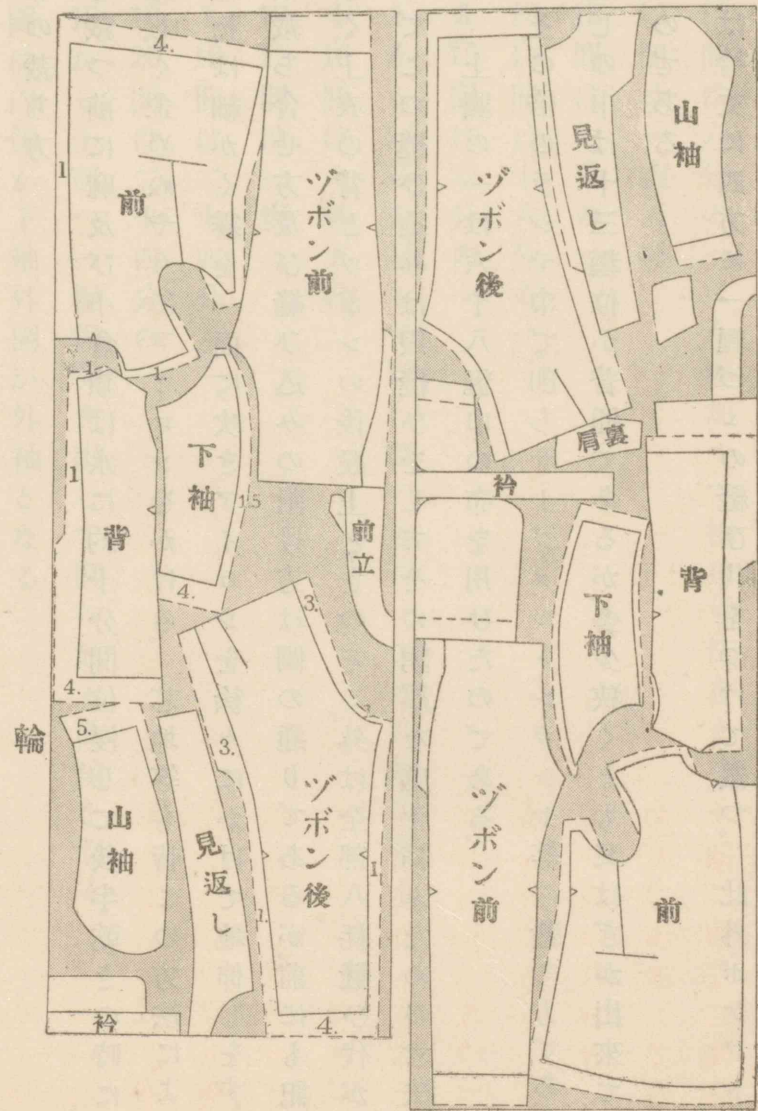
先づ切袷を圖の如くつける。下前切り取り線とあるは下前(右)の方一

⑤ ツボン縫ひ方

ことが肝要である。

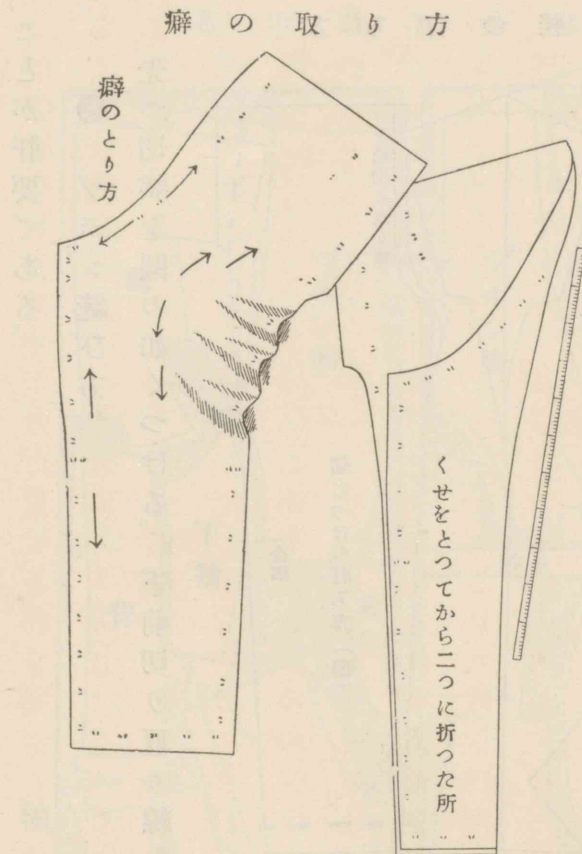
枚だけを約三十二分の一切り落すのである。すべてツボンは上前よりも下前の方が少し狭くなつてゐるのである。切り袷の打ち方 袷糸を二本にして表布を圖の如く二枚重ねて約五糎位の間隔を

布の裁ち合せ圖



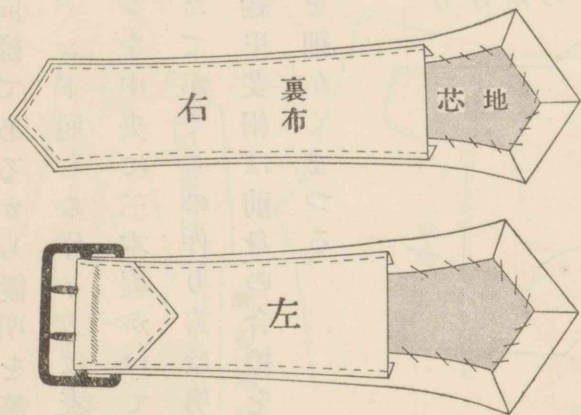
何れが輪にてもよし。

おいて、縫ひ込みのある部分だけに標をする。
 癖の取り方 圖に示した通り後の股上を伸すやうに強くアイロンをかける。股下の方は合標の處を中心にして上下へ強く引きのばす。その時アイロンをかける前にその部分に霧を吹き、その上をアイロんで伸す。



かうしてズボンの癖の取り方圖の如く二つ折りにすると輪の方が幾分彎曲になる。これをズボンのスワリといふ。かうして

尾錠の作り方



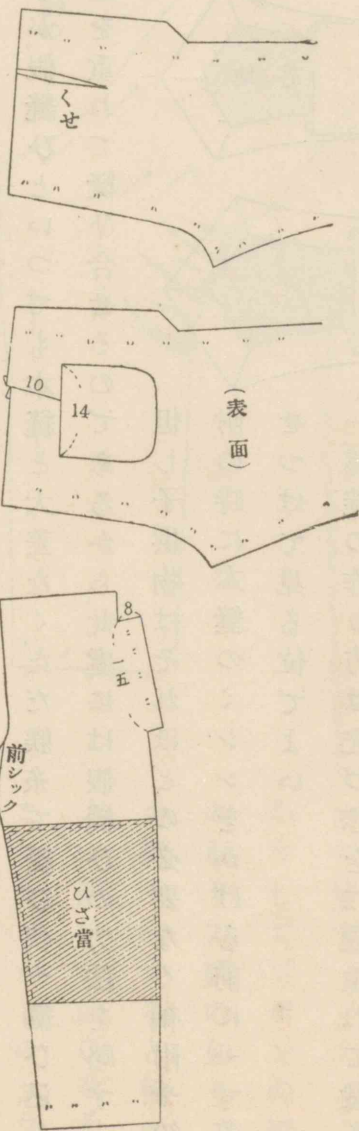
一、度假縫ひして着せつけて見て、それを補正して後に本縫ひにかゝるのであるが、假縫ひといつても本縫ひと大差なく、ただ襟糸で縫ひ代や縫ひ込み寸法を重ねて縫ひ合せるのであるから、此處には假縫ひの方法を略す。

但し子供物はそれほど必要なく、袖附や衿附の時に本縫ひのミシンをかける前に一寸着せつけて見る位でよい。

一、尾錠の作り方は先づ芯を二枚重ねて裁ち切る、長さは十二糎で巾は廣い處が三糎五糎狭い處が二糎として圖の如く裁ち、表布は周圍に五糎位の縫ひ代をつけて裁ち、芯地を表布に躡て押へ、その上に裏布をのせてミシンをかける。左には金具をつける。
 二、前立及び天狗の作り方は男兒半ズボンと

同様であるから説明を略す。
 三、バンド通しの作り方は表布を二糎五耗位に裁ち、八耗巾位に折り、ミシンを中央に三本程かけておく。
 四、たてがくしの作り方は男兒半ツボンの處を参照する
 五、膝甲斐絹は前身の合標を中心に上下を耳にして躰を打ち、上の方だけを細かくまつる。

方の取り方
ポケットの付け方



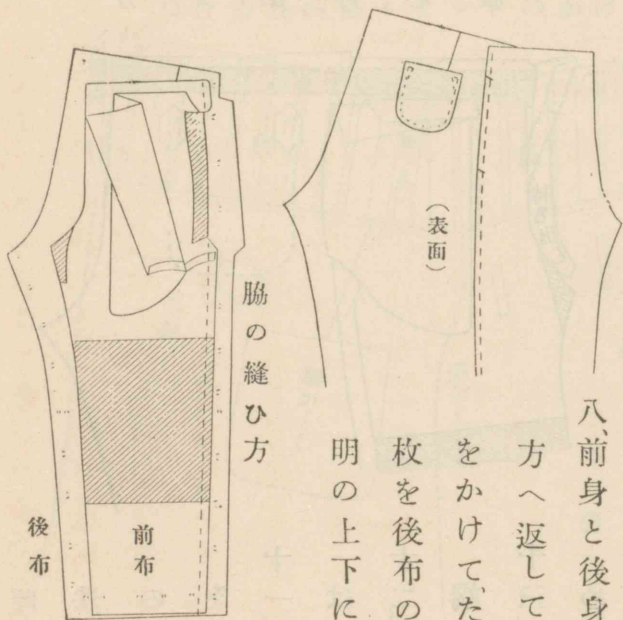
六、後身のつまみぐせを縫つて、後方に倒して飾りミシンをかける。
 七、後身の右の方へつまみぐせの下に腰ポケットをつける。大きさは口を十四糎位にして深さは一糎半程深くする。

八、前身と後身の脇を縫ひ合せ、縫ひ代は前身の方へ返して表から三耗の深さに飾りミシンをかけて、たてがくしを躰でとめて袋布の一枚を後布の縫ひ込みにゆるくまつりつけ、口明の上下にかんぬき留をしておく。

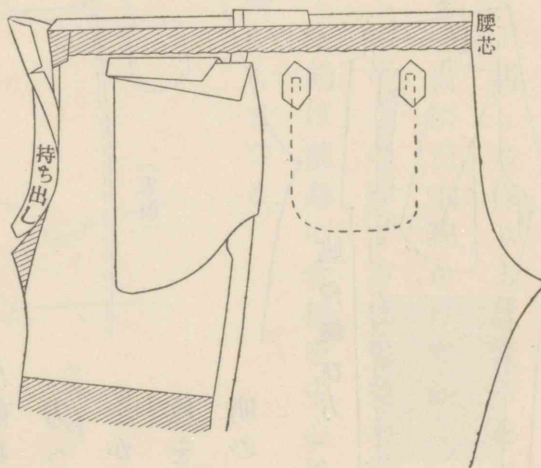
九、持ち出しをつけて縫ひ目を割る。

十、腰の部分に上から一糎下げ、腰芯(五糎巾)を圖の如くすべて一糎の縫ひ代を折りま

方の縫ひ方



腰 芯 の 据 え 方



げその上に一糶重ねて圖に示す寸法の腰裏を躡で押へる。その時後のかまみの處と脇縫との間で腰裏を四糶つまむ。

十一、飾りミシンを圖の如く約三糶程はいつた處から順にミシンをかける。

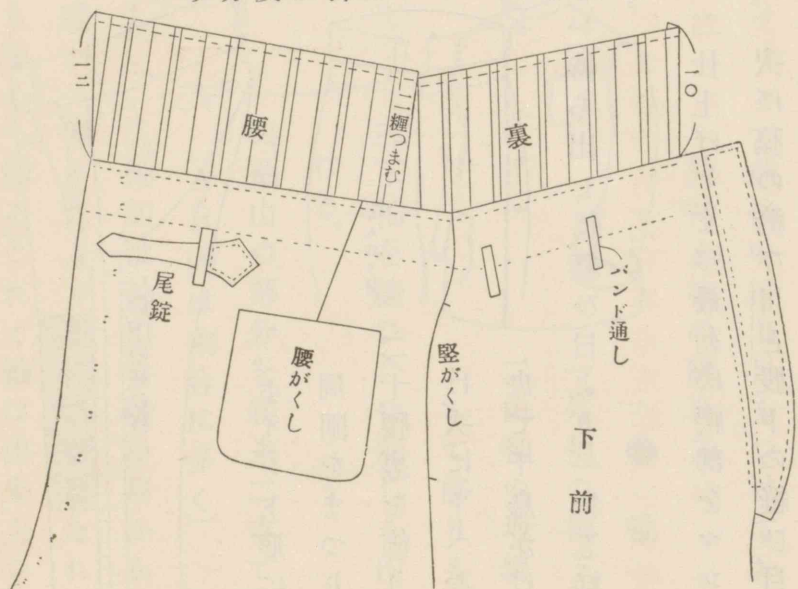
十二、尾錠を後の方を八糶程下げて尖端より一糶程外に出してつける。

十三、バンド通しは圖の如く尾錠の止めのミシンの上へ一本と、たての縫

ひ目より一糶五糶程はなれて一本、それから前巾の中央へ一本附ける。何れも穴糸でしつかり留めておく。

十四、上前も三糶の深さに飾りミシンをかけてから前立を二糶程控へて

腰裏・尾錠・バンド通し・腰がくしのつけ方及び飾りミシンのかけ方



ミシンで押へる。

十五、股下を圖の如く縫ひ合せて縫ひ目は割つておく。

十六、裾を圖の如くたての縫ひ目と股下の縫ひ目を合せて折り、

前の方を一糶程切躡より上へ斜に折り上げ、細かく且つ弛く

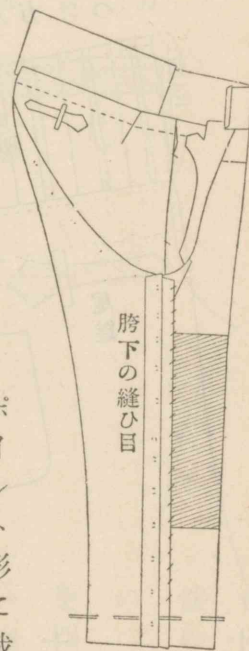
表にひびかぬやうにまつる。これは前の切り上げとなる。

十七、前の小股(天狗の下)を穴糸で細かく返し針に縫ひ、その糸を

切らずに門留をしておく。

十八、後の股上を切躡通りミシン

裾の折り上げ

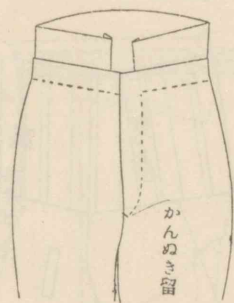


をかける、此所は充分伸して二度縫ひをする。

十九、シツクを斜布で長さ十二糎、巾五糎位の布を、先の方を

ポイント形に裁つて股の縫ひ込みの上にあて周囲をまつりつける。

門留



二十、腰裏を飾りミシンの所で一度弛くまつりつけ、次に下へおろして、前端と後中心及び巾の中央で千鳥がけにして押へる。

二十一、持ち出しに、縫ひ目より一糎五耗内側に等分して、前釦を四個つける。

二十二、仕上げ まづ最初に腰部をマンヂウの上でよくアイロンをかける。次に脇の縫ひ目と股下の縫ひ目とをよく揃へて股下の方をよく

上衣出来上りの圖



詰衿上衣の縫ひ方

アイロンで前後の折り目をつけておく。

● 袖

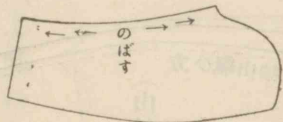
一、外袖の袖下を圖の如く伸して地伸しをする。

二、山袖の地縫ひをして内袖でくるみ、外袖に倒して飾りミシンをかける。

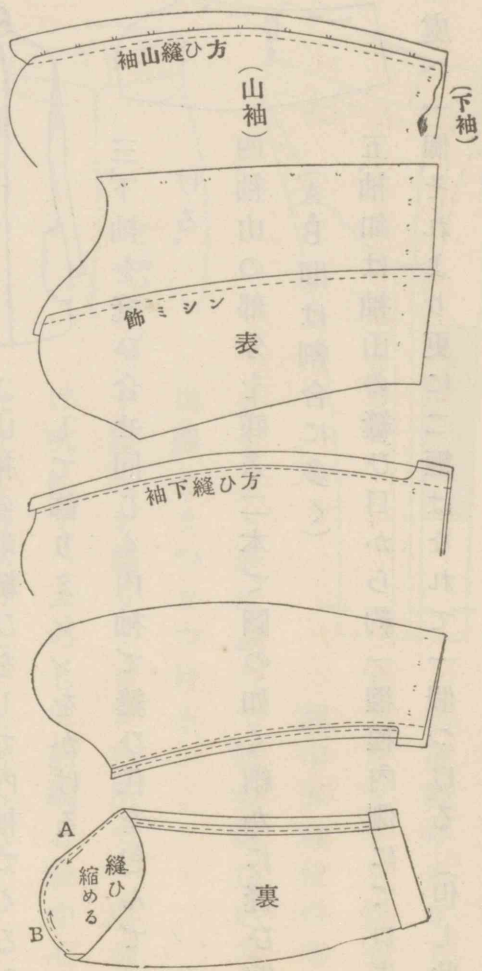
三、下袖を縫ひ合せ同じく内袖で縫ひ代を包んでミシンをかける。

四、袖山の部分を簇糸二本で圖の如く細かに縫ひ縮めておく。(A・B間は割合に多く)

五、袖釦は袖山の縫ひ目から約一糎程内側にて口先より四糎の處へ一個、それより更に二糎はなれて一個つける。(但し此寸法は何れも中心へ測る)これで袖は出来上つた。



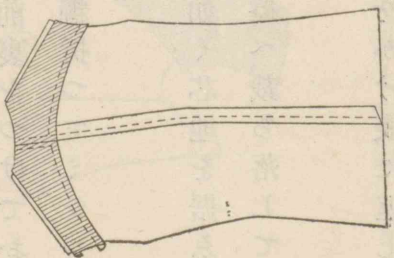
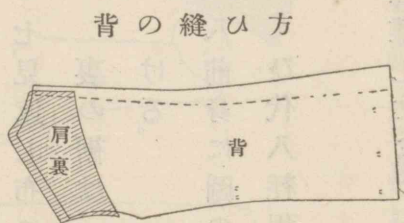
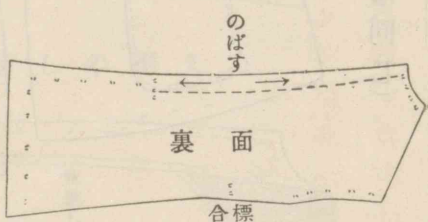
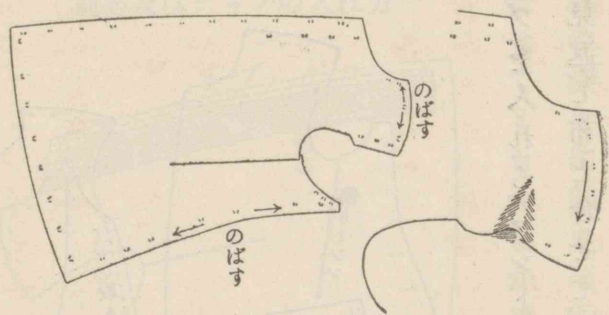
袖の縫ひ方圖



二 身頃

一、右圖の如く前身の肩及び脇、後身の背の中心をのばしてくせをとる。
 二、肩裏を圖の如く裁ち合せて、表布は背の中心を標通りにミシンをかけ、縫ひ代は左へ折つて表面から三耗の飾りミシンをかける。

癖の取り方



三、肩裏も同じやうにその中心を縫ひ、縫ひ目は割つて割りミシンをかけ、裾を一糎程折つてミシンをかけ、表にとぢつける。

四、上前の前端を切り、襟より二糎内側で裁ち落す。(上前は五糎で多過ぎるから必ず裁ち落すこと)
 五、つまみぐせを縫ふ。縫ひ代は脇の方に折つて表から飾りミシンをか

けておく。



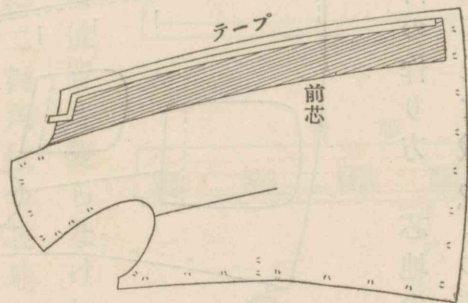
六、腰がくしをつける。圖の如くかくし袋を當ててミシンをかける。その時裏側から共布で、かくし口の
 両端へ力布を當てる。口の處は
 鍵の手に丈夫に二度程ミシンを
 かけ、力布の周圍はまつりつける。
 七、見返し布に前裏をつけておき、前
 裏の裾は一糎折つてミシンをか
 ける。

プを入れる。(マントに同じ)

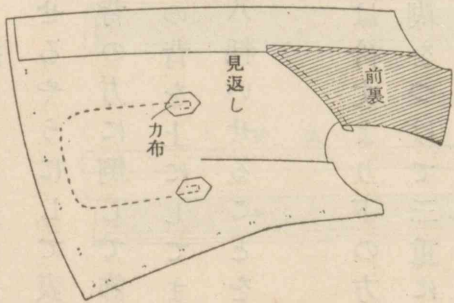
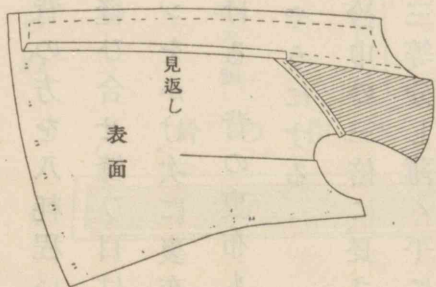
八、前身に圖の如く芯地を据ゑて、縫
 ひ代八糎程控へ、裁ち落してテ
 九、見返し布と合せて、芯地より二糎程離してミシンをかけ、表に返して三

糎の深さに飾りミシンをかける。見返しの奥は芯地と見返しと折り
 合せてミシンをかける。

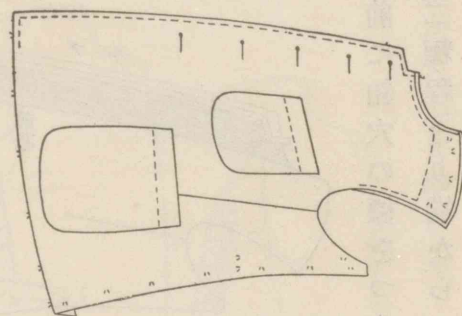
前芯及びテープの入れ方



見返しの据ゑ方



十、上前に釦穴の標をつける。下端の穴は略かくしと平行につけ、上端は
 約二糎程下り、端から一糎五糎入つて穴の大きさを二糎五糎に定めて、
 前端的飾りミシンと同時に穴ミシンをかけておく。



十一、脇の合標をよく合せて地縫をし、袖山の如く伏せ縫ひにして背の方に返して飾りミシンをかける。

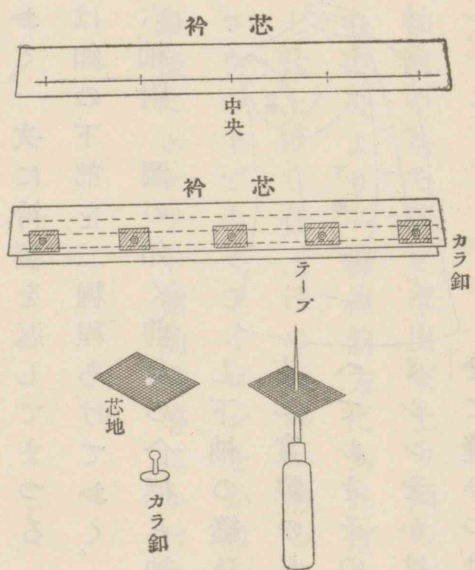
十二、裾は三つ折りにして、細かく丈夫にまつる。

十三、背の方を八耗程いせるやうにして表の肩を縫ひ合せ、縫ひ目は背の方に倒して飾りミシンをかけ、次に裏布の背を上にしてまつりつける。背の裏布も八耗いせることを忘れぬやうにする。

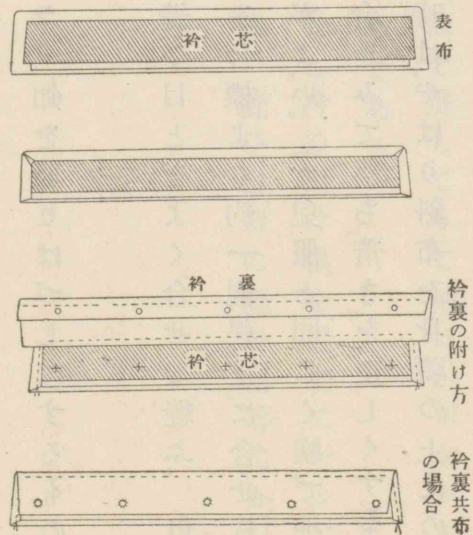
十四、衿の作り方 芯地の巾を衿巾の三倍に、長さは衿丈より下の方を三耗長くして裁ち、この芯地を三等分し薄く平に糊をつけて三重に張りつけ、アイロンで乾し、圖に示す位置にカラー釦をつける。

左圖の寸法は三糎五耗巾のカラーの時であるから、カラーの巾により

カラー釦のつけ方



衿の作り方



釦の位置も變らなければならぬ。

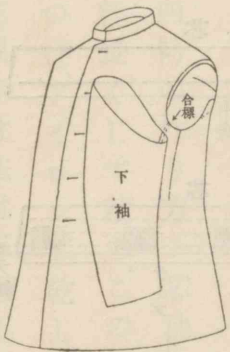
次に二糎角位の芯地を五枚裁ち、目打にて穴をあけ、そこへカラー釦を通して圖の如く標の上に糊で貼りつける。

三方を折り曲げて、其の上に裏衿をのせてミシンをかける。但し表布をつまめて裁ち衿裏の代りにすることも有る。又カラー釦をとりは

づしにする時は衿裏にハトメ穴をかゝつておき、芯地にはカラー釦を
つけないこともある。

十五、衿の付け方 出来上つた衿を身頃の衿ぐりへ縫ひつけて、縫ひ代は
衿の方へ返し、中央へ衿づりを穴糸で堅くとぢつけておき、衿の両端へ
ホック二組を丈夫にとぢつけ、又衿付け留の處へは小さな門留をして
おく。次に衿裏を返してまつる。カラー釦を取りはづしにするもの
は釦の下部を二糎程あけておく。

袖のつけ方

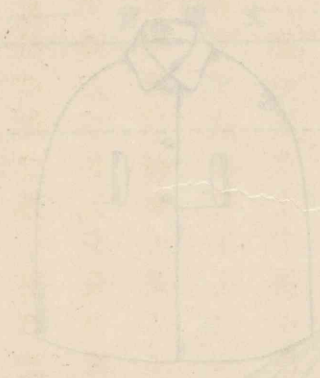


十六、袖附 圖の如く前身の合標と袖の縫ひ目とをよく合せて縫ふ。但
し下袖の縫ひ目を合標より約一糎程上に合せる
方が實際の具合がよい。(女兒服と同じく躡て押
へておきその具合をみて落ち着きを正しくする)
ミシンをかける時は、やはり斜布を身頃の上の
せて縫ひつけ後にその縁布で縫ひ代をくるんで

まつる。

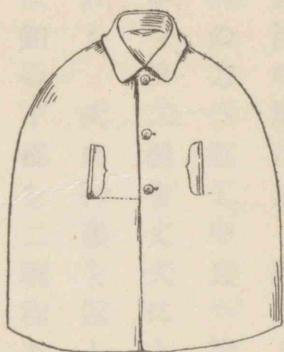
袖附の落ち着きは出来上り圖の如く、袖を垂してみても、袖口がポケット
の中央より一糎程前方にあればよいのである。

十七、仕上げ 仕上げの順序は、肩の縫ひ目と衿の付け根を、最初にマンジ
ユウの上でよくアイロンをかけ、次に脇の縫ひ目、背の縫ひ目等につけ、
最後にポケット、裾、前端等にかける。



第十一章 ケーブ

ケーブ出来上りの圖



ケーブは防寒用にも雨具用にも用ひられ、又男女何れも同様の型でよいが、地質・色合又は前重なり等で男女の區別をしてゐる。裏も肩裏だけつけることもあり、又總裏にすることもあるが、こゝには肩裏附の物を説明する。

用布 防寒用にはラシヤ・アストラカン・ビロード・シル等普通用ひ、雨具用としては蠟びきの布を用ひる。

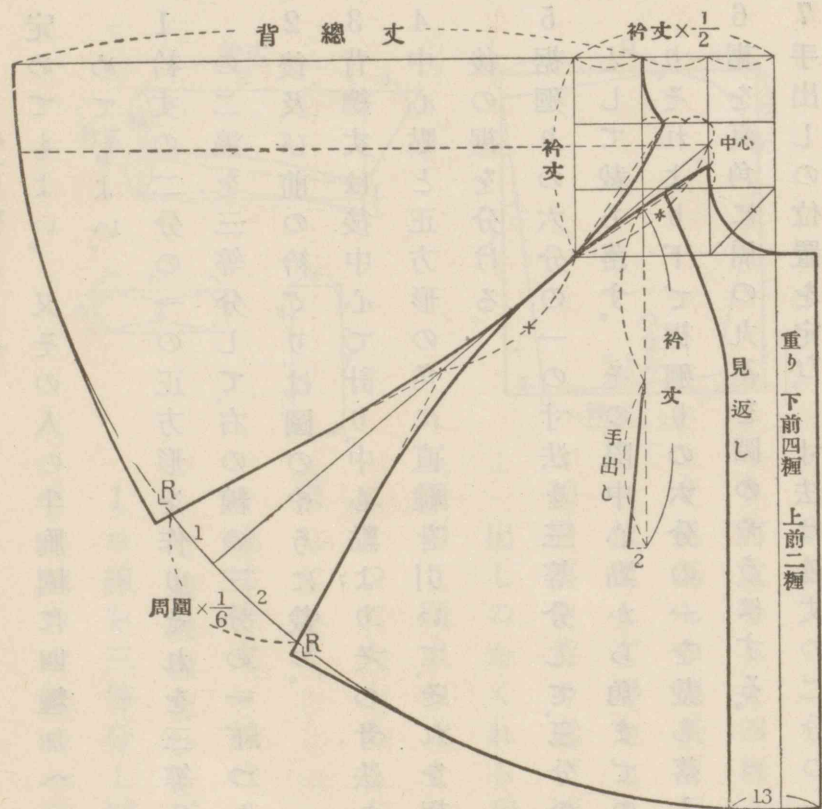
一 積り方

背總丈の一倍半、又は二倍(ラシヤ巾)

裏布は六十八糎巾で背總丈だけ要する。

附屬品 芯地(麻或はみつあや)三十糎、釦三個、鉤ホツク一組

ケーブ型紙の裁ち方



二 裁ち方

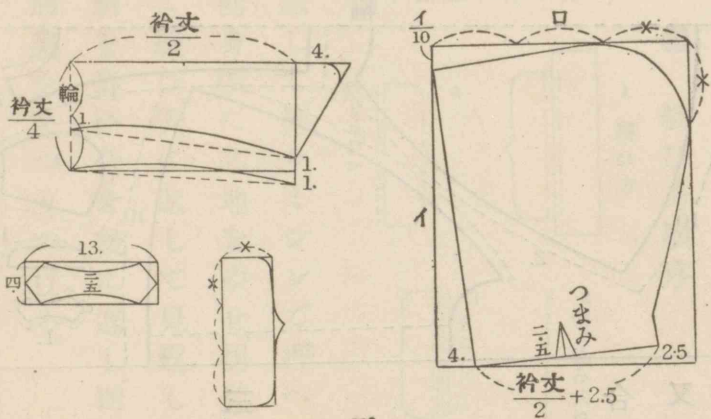
裁ち方には原型を使用する方法と、衿廻りを基礎として割り出す方法とあるが、こゝには簡単な衿廻りから割り出すものを説明する。

一、身頃 まづ衿丈を定める。衿丈の計り方には洋服或は和服着用のまゝ、弛く衿廻りを計つて

定めてもよい。又その人の半胸圍に四糶加へて、これをその寸法と定めてもよい。

- 1 衿丈の二分の一の正方形を作り、それを三等分し、更にその中央の角の二邊を三等分して、右の線の三分の一下つた處を中心點とする。
- 2 後及び前の衿ぐりは圖のやうに裁つ。
- 3 背總丈は後中心で計り、中心點よりその寸法の半徑を以て弧を畫く。
- 4 中心點と正方形の角に直線を引いて、それを裾まで延長し、此線で前後の裾を分ける。
- 5 裾廻りの六分の一の寸法を三等分して、三分の一を後、三分の二を前として裁ち落す。その際中心點から角までの寸法を更に下まで計り、それより下で裾廻りの六分の一を裁ち落す。
- 6 裾を直角に肩の丸みを圖のやうにする。
- 7 手出しの位置を定む。寸法は衿丈の二分の一とし、更に下二糶斜にする。

マント頭布の裁ち方

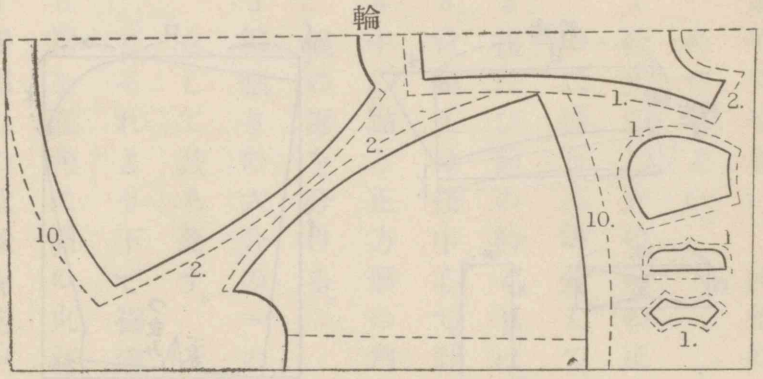


- 8 前重なりを四糶とる
- 9 見返しの型紙を裾で十三糶位、肩で三糶位にして形をとる。
- 10 肩裏を背の處で適宜寸法を定め、前は手出しのかくれる程度までつける。

二頭巾 頭巾の大きさは、その人の帽子の形

- 1 口線を三等分し圖の如く丸みをつける。
- 2 イ線の十分の一前の方を裁ち落す。

布の裁ち合せ方



3 イ線の下に四糎と標し斜線を引く。
 4 衿丈の二分の一につまみの寸法二糎五
 耗加へて計り、其の點と頂きの丸みを形
 よく合せる。

三、衿 衿の裁ち方は男兒服の衿を参照して圖
 解によれば明瞭である。

手出しの巾は丈の三分の一とし、形は各々好
 みによつてする。

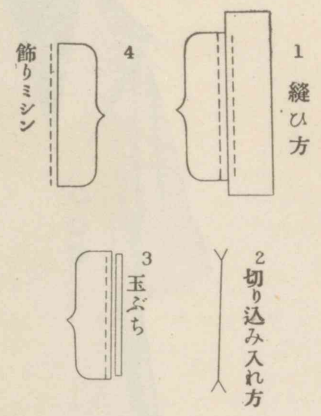
三 布の裁ち合せ方

上圖の如く裾開きの少ない時は前後を裁ち
 合せる。
 又毛並のある地質は逆毛にならぬやに注意し
 て裁つ。従つて布が多く要る。

裾の折り返しは十糎内外、但し大人物は裁ち切りのまゝにする事もある。

四 縫ひ方順序

手出しの作り方



1 手出しの蓋を作る。まづ芯地を一枚
 入れて蓋を作り、上圖の如く口布を當
 て、玉ぶちをこしらへ、次に二圖の如く
 切り込みを入れる。三圖の如く玉ぶ
 ちに落しミシンをかけ、次に蓋を折り

返して飾りミシンで押へる。

- 2 前身頃に芯地をのせ、男兒服の如く吊布を入れ、見返し布と中表に合せ
 て縫ひ、表に返して見返しを控へ目にして飾りミシンをかける。
- 3 肩を縫ひ合せ後に返し、四耗の飾りミシンをかける。
- 4 肩裏をまつりつける。
- 5 見返し及び裾に斜布で縁りを取り、裾を折り上げてまつる。

6 衿を男児服の如く仕上げて身頃につける。その時衿中心に吊布を入
れる。

7 頭巾を縫ひ合せる。

8 仕上げをし、穴かゞり及び釦附をする。



女兒オーバコート及びケープ(右端)

第十二章 女兒外套

女兒外套出來上り圖



この型は女兒に多く用ひられるけれども、女兒のみに限らずに少し裁ち方を變へれば婦人及び男兒にも應用が出来る。

用布 ラクダ・メルトン・シールク

ストラカン等を多く用ふるけれど近頃オーバー地としていろいろ新しいものがある。

① 積り方

背總丈に折り返しを加へて二倍する。但し毛並のある布の時は二倍半位を要す。

② 裁ち方

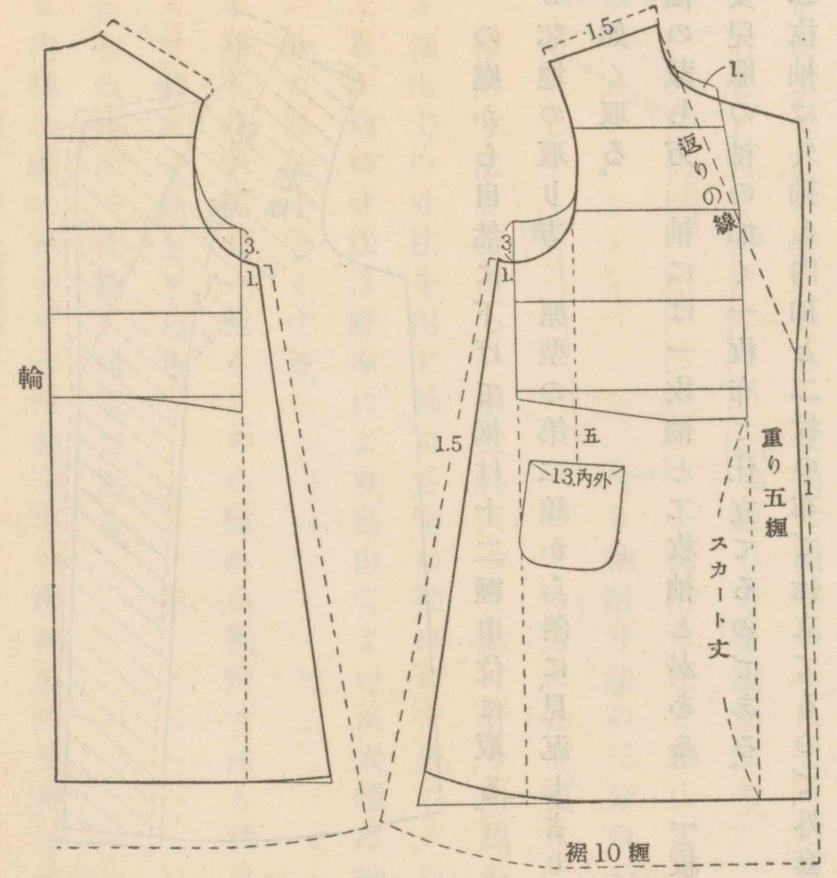
オーバー地を裁つ時に特に注意をしなければならぬことは毛並である。

即ち逆毛にならぬやうに裁つこと、逆毛とは出来上つた服の毛並が上に向いてゐることである。
衿や袖等も同じで、袖口の方に毛並が向くやうに裁つのである。又表と裏の違つた縞柄になつてゐるものは裏をつけないのが普通である。但し裏袖と肩すべりはつける。

一、前身頃の裁ち方

- 1 原型は全部洋服を着た上から取つた寸法で作る。
- 2 袖ぐりを三糎位下げ、脇に一糎程出して袖附をゆるやかにする。
- 3 原型をスリップの時のやうに下に引きのばして裾の開きを作る。前の重なりを五糎とる。
- 4 衿元で一糎を裁ち落とし衿ぐりの丸みの角とつゞけて、前の重なりとの線と結ぶ。
- 5 ポケットの位置 ポケットの中心が胸巾の垂線と合ふやうに、下胴

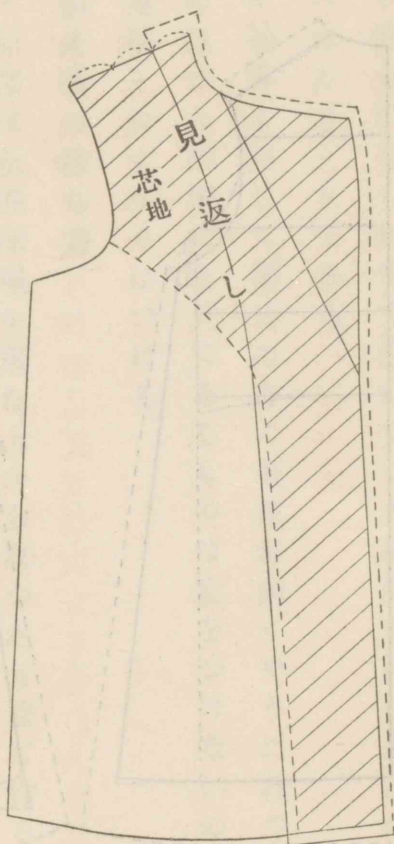
身頃の裁ち方



から五糎下げる、形は自由である。
6 縫ひ代及び裾の折り返しは圖の通りである。

二、後身頃の裁ち方
袖ぐり、裾及び脇の開き等全部前身頃と同じ。
三、見返し及び芯

見返し及び芯地の裁ち方



地の取り方

一四四

- 1 見返しの取り方 これは衿が折れて表に出る處になるのである。肩巾の三分の一

の處から自然に下げて裾は十二糎巾位に取る。

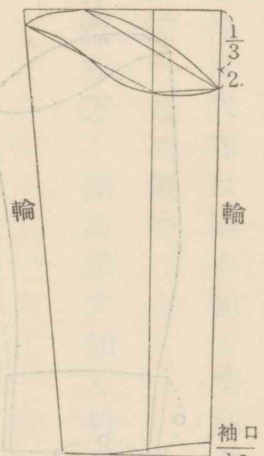
- 2 芯地の取り方 原型の第二線から斜に見返しより五糎程狭く圖の如く取る。

四袖の裁ち方 袖には一枚袖と二枚袖とがある。一枚袖はこれまでの女児服の袖の如く一枚布で仕立てるのである。

二枚袖は外袖と内袖と二枚の布で仕立てるので、外套にはこの二枚袖

を使ふことが多いから一枚袖は圖解のみにとゞめ、こゝでは二枚袖の

袖の裁ち方(一)



裁ち方を説明する。

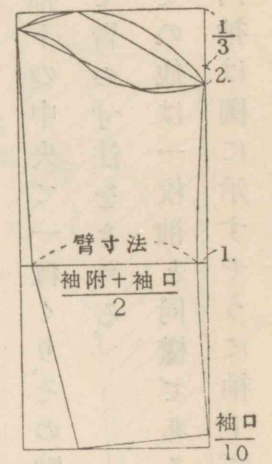
- 1 袖附寸法と袖山丈とを定める。
- 2 袖附寸法の三分の一を圖の如くスワリの方にとり、更に二糎下げ、それより袖附寸法を山から一糎五耗入つた處に計り、斜線を引く。
- 3 袖山丈の寸法を出し袖口を定め、袖口の十分の一の切り上げをつける。袖口寸法は好みにより、自由でよいが大體は袖附寸法よりも十分の二位小さくする。

4 袖下の中央で一糎くり、その點から袖附寸法と袖口寸法とを平均して臂の寸法をきめる。

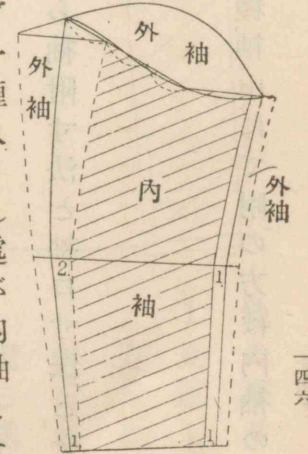
5 その他は一枚袖と同様である。

6 内袖は圖に示すやうに袖下で一糎袖山にて附の方は内袖の三分の

袖の裁ち方 (二の一)



(二の二)

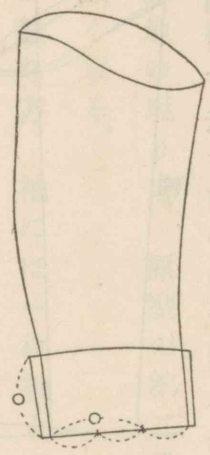


一入つた處から引いた斜線

の三分の一の寸法、臂で二糎、袖口で一糎入りし處が内袖となる。外袖は圖の如く内袖と反對に同じ寸法を外に開く。

布を裁つ時は、各々袖の縫ひ合せ目に縫ひ代をつける。

カフスの裁ち方 (一)



(二)



五、カフスの裁ち方

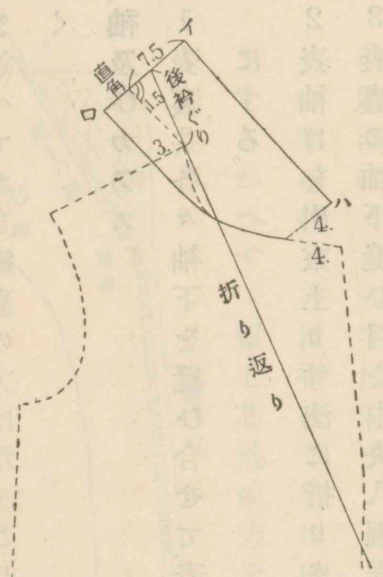
袖口の大きさよりも布の厚みだけ大

きくして、巾は袖口の三分の二位に裁つ。

芯地は、表布は圖の如く型通りに上下左右に縫ひ代をつけ、裏布は巾を稍控へ目に裁つ。

六、衿裁ち方 圖に示す如く、衿肩の處にて折り返りの斜線を後衿肩寸法を伸ばし、其線より肩の方に一糎五

衿の裁ち方



耗寄せて衿ぐりの處より斜線を引き、それに直角を取つて、イへ七糎五耗、ロへ三糎取つて衿巾とする。ロハは衿附止りからロに向つて衿ぐりにならつて裁つ。次に前身頃角から四糎離してハに向つて斜線を

引く。出來上り圖よりも衿巾を廣くする場合はいまでの寸法を隨意に廣くする。随つて前重なりも稍多くすればよい。

縫ひ方順序

外套は半裏にする場合と總裏にする場合とあるが、こゝには半裏のものを述べておき、總裏の方はたゞこれが長くなるだけであるから略しておく。

一、袖及びカフス

1 表裏共各々袖下を縫ひ合せて、表袖は割り、裏袖は外袖の方に片返しにする。

2 表袖口を出来上り寸法に折りまげて千鳥掛にする。

3 表裏の袖下縫ひ目を中央八厘程の間をとち合せて、裏袖口を表袖口の返しだけ控へてまつる。

4 カフス布の裏に芯地を當て、輪に縫ひ、兩方から布を折つて千鳥掛にして芯地につける。カフス巾の充分ある時は芯の中間で兩方の裁ち目が突き合せになるやうにし、不足の場合は、芯地が見えぬやう

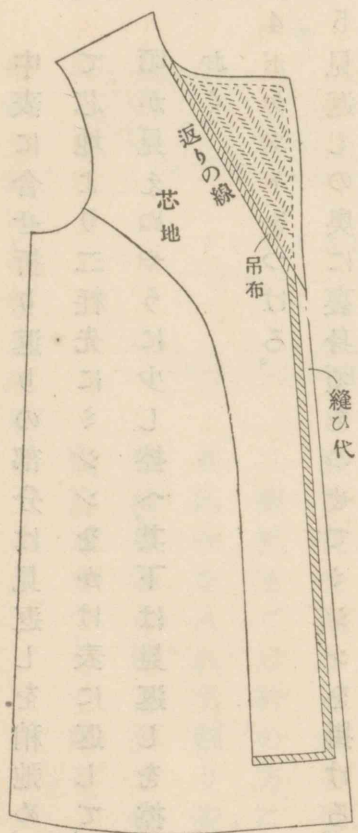
に裏布をあて、まつりつける。

5 出来上つたカフスを袖口より一糎先に出し、袖口先をまつりつける。

二、身頃

1 前身頃に芯地をのせ折り返りより先を残して假とちして折り返りの處は細くハの字に刺す。
ハの字の刺し方は、初め下方に向つて刺し、後上に刺して上る。これをくりかへす。但し芯地の方を弛み加減にし、縫ひ代だけ芯地を控

返りの刺し方



へる。

2 返りの斜の處と前端とに吊布を入れる。(これはケープ

の時と同様でよい)

3 見返し布と身頃と

中表に合せ、折り返りの部分は見返しを、稍弛め、其下は平にして裾まで芯地より二耗先にミシンをかけ、表に返して、返りの線から上は身頃が見えぬやうに少し控へ、其下は見返しを控へ目にして躰をしておく。

- 4 ポケットをつける。
- 5 見返しの奥に裏身頃をのせてミシンを掛ける。裏布のつかぬ處は斜布(肩裏と共布)で縁をとり、表布にひかぬやうにまつりつける。縁は二糧巾の斜布を用ひ出来上り五耗として落しミシンをかける。
- 6 表の肩及び脇を縫ひ合せて割り、裏布及び芯地は縫ひ代にとぢつけてまつる。脇の縫ひ込みも裏のない處は縁を取つてまつりつける。
- 7 裾も出来上りに折り返して、裁ち目に縁をとつてまつりつける。

三、袖附

- 1 袖及び身頃のスワリを合せて表袖をつけて縫ひ代は割る。此時一

度は躰のみで假縫ひして袖の落ち着きを見る。

- 2 表袖に裏身頃をとぢつけ、その上に裏袖をのせてまつる。

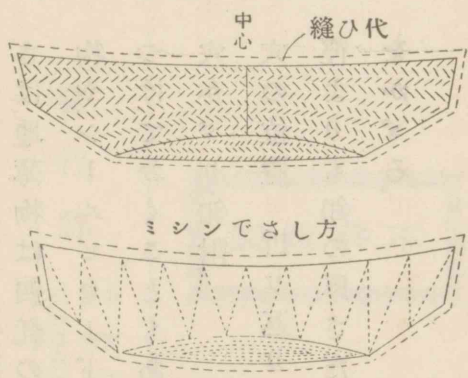
四、衿

- 1 裏衿の裏に芯地をのせて圖の如く刺す、地質によつてはミシンで刺してもよい。

- 2 表衿と裏衿とを合せ、衿附寸法を残して三方を縫ひ合せる。

- 3 縫ひ代を細かく裁ち切り、折り返りの線より二糧奥までは衿の方に返し、それより先は切り込みを入れて割り、表布も同様に返りの部分は身頃と衿を突き合せ接ぎにし、その他は表衿でまつりつける。その時中央にケープ

方の刺し衿



の如く衿ぐりを入れる。

飾りミシン前見返しの裾から衿までずつと通してかける。その深さは地薄物は四耗の深さ地厚物は七耗位。但し毛並のよく見える物や、シル・ビロード等は飾りミシンの代りに裏から縫ひ代をどちつけておくこともある。

穴かゞり・釦附。

穴の位置 折り返りの線より一糎下に、前端から二糎入つて釦の直徑よりも釦の厚さだけ大きく穴ミシンをかけてから切りあけて穴をかゞる。

模範裁縫教科書 卷五終り

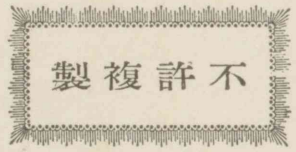
大正十五年十二月十四日印刷
 大正十五年十二月十七日發行
 昭和二年九月廿二日修正再版印刷
 昭和二年九月廿五日修正再版發行

| | |
|-----------|------------|
| 模範裁縫教科書卷五 | 定價 金五拾六錢 |
| 昭和二年度 | 臨時定價 金九拾五錢 |
| 昭和三年度 | 臨時定價 金九拾三錢 |

著者 大妻コタカ

發行兼印刷者 三省堂
 東京市麴町區大手町一丁目一番地

印刷所 三省堂印刷部
 東京府荏原郡蒲田町



不許複製

發行所

（東京市麴町區大町一丁目四十一番地）
 三省堂株式會社
 （大阪府南區順慶町通八丁目三〇番地）
 三省堂大阪支店

伊藤製本



岡

広島大学図書

2000081281

